

## 付録2

## バングラデシュ政治人名録

## 解 説

1971年4月に発足した臨時政府から、1988年末時点のエルシャド政権まで、約17年と8カ月の間、149名の指導者が閣僚もしくは戒厳司令官の顧問評議会メンバーとなっている。それぞれの政権のもとでの、これら閣僚（ないし顧問）の職業的背景は本書序章の第2表に示されている。本付録2は、同表のもとになった資料を簡単な人名録の形に整理し、付録1の閣僚（顧問）名簿とあわせて参照することによって、バングラデシュ政治史のより具体的な理解に役立てようとするものである。

バングラデシュの政治研究においては、例えばインドの場合などと比較すると、政治制度面からのアプローチは、はるかに困難で限界がある。長期にわたる軍政のもとで、議会=政党といった政治的意思結集の手段が制度化されにくく、軍首脳部と、それを取りまく官僚、一部政治家層による、非制度的な意思決定メカニズムが常に優勢であった。序章等で指摘しているように、一時期において、いわゆる「民政化」による意思決定メカニズムが制度化されたにみえて、すぐにそれが新たな軍政によってとって代わられるというのが、これまでのバングラデシュ政治であった。そのため、研究方法そのものも、このような非制度的意思決定過程を追うのにふさわしいものでなければならない。例えば、ここに試みるような人名録の作成などの手段によって、権力中枢に現れて

は消える指導者層を具体的におさえ、そのような作業のうえに立って、単に「非制度的」という消極的だけでなく規定で、この国の政治意思決定過程の特徴を描き出す手法が必要である。本書ないし本付録がそれに成功しているか否かはともかく、この人名録は、バングラデシュ政治研究を基礎から出発させようという、編者のこのような意図から編まれたものである。

しかし制約は非常に大きく、序章の第2表が示すように、職業的背景だけでも、かなりの数の未確認者が残っている。この人名録のデータは、以下に掲げる既存の英文、ベンガル語文の人名録、新聞や雑誌の記事によって整理されているが、ある程度まとまった記事が収集できたのは、149名中、106名とみてよいだろう（ただし残りの43名のなかで16名については第2表のもとになった職業データは得られている）。この資料を作成するにあたって、この106名余りに記述を限定することもひとつの選択ではあったが、今後の充実を期すという意味も込めて、データのほとんど得られなかった人物に関しても、氏名と入閣歴のみを記しておくことにした。その意味で、個人による情報の精疎は、以下の記述のなかで自ずと明らかである。

個人の情報は、以下の7項目から成っている。

(1) 氏名（ローマ字表記、日本語読み）

基本的に付録1でのローマ字表記と同じ。日本語読みは、なるべくベンガル語音に近くした。人名の日本語読みに関しては、本書のまえがきも参照。

(2) 出生年・死亡年（〔 〕内）

日付の表記は付録1とは異り日・月・年というバングラデシュでも慣行となっている方式。月まで明らかな場合年は36などというように19を省略。月も明らかでない時のみ、1936などとする。没年が確認されていないケースもある。

(3) 出生地

旧県（現在のRegion）名／郡（サブディビジョン、タナないしウポジラなど）名／村名の順が基本。郡名のみが不明の場合は？とする。

## (4) 家族等

家族等に、特筆すべき事項が知られている場合のみ記載。

## (5) 教育

教育機関名が明らかな場合は記載し、カッコ内に資格を略号で入れた。略号は以下のとおり。

Matr=Matriculation 大学入学資格(高卒)

IA=Intermediate, Arts 大学前期, 文科

ISc=Intermediate, Science 大学前期, 理科

BA=Bachelor of Arts 大卒(学士), 文科

BSc=Bachelor of Science 大卒(学士), 理科

BE=Bachelor of Engineering 大卒(学士), 工学

MA=Master of Arts 修士, 文科

MSc=Master of Science 修士, 理科

MCom=Master of Commerce 修士, 商科

PhD=Doctor of Philosophy 博士

DSc=Doctor of Science 博士, 科学

LLB=Bachelor of Laws 学士(法律)

BCL=Bachelor of Civil Law 学士(民法)

MBBS=Bachelor of Medicine and Surgery 学士(薬学, 外科)

MRCP=Member of the Royal College of Physicians (of Edinburgh) イギリスの内科医資格

FRCS=Fellow of the Royal College of Surgeons (of Edinburgh) イギリスの外科医資格

MPA=Master of Public Administration 修士(行政学)

## (6) 職歴

教育修了後の職歴。軍人、官僚の場合、研修・訓練なども含む。職歴不明の場合、主たる職業のみを記載している。職歴と政治歴とが区別し難い場合もあるが、閑僚(ないし顧問)任命以降の経歴はおおむね政治歴として

いる。

(7) 政治歴

学生時代の活動（例：全インドムスリム学生連盟AIMSFでの活動），政党での活動歴，閣僚（顧問）任命以降の政治歴などを記載する。閣僚（顧問）の場合，担当部局の細かい異動が省かれていることもある。情報の少ない場合は，付録1の情報のみにとどまっている。

政党名については以下の略号を文中で用いた。また頻出する東パキスタン，バングラデシュという州名，国名についてはEP，BDと省略した。

ML ムスリム連盟

AML アワミ・ムスリム連盟

BAKSAL バングラデシュ農民労働者アワミ連盟

BDL バングラデシュ民主連盟

JD ジョノ・ドル（人民党）

NAP 民族アワミ党

UPP 統一人民党

NAP（B） 民族アワミ党（バシヤニ派）

LP 労働党

JP ジャティヨ・パーティー（国民党）

SCF 指定カースト連盟

BDJL バングラデシュ民族連盟

最後に出所が〔 〕内に示されている。略号は以下に従う。

〔OB〕

*Bangladesh Observer*, Dhaka.

〔BI〕

*Bicitrā (Sāptāhika)*, Dhākā.

〔BX〕

Baxter, Craig and Syedur Rahman, *Historical Dictionary of Bangladesh*, *Asian Historical Dictionaries, No.2*, The Scarecrow Press, Metuchen, N.J. & London, 1989.

〔BA〕

Khāna, Sāmmasujjāmāna and Selinā Hosena (eds.), *Caritābhidhāna*, Bāmlā Ekāḍemi, Dhākā, 1985.

〔PA〕

Mostafa Haruna (ed.), *Parichta, Who's Who in the Parliament*, Saukhina Prakāśanī, Dhākā, 1979.

〔T82〕

Shamsul Huda, A. K. M. (ed.), *Who's Who in Bangladesh 1982*, The Times Publications, 1982.

〔T84〕

Shamsul Huda, A. K. M. (ed.), *Who's Who in Bangladesh 1984*, The Times Publications, 1984.

〔Rashiduzzaman〕

Rashiduzzaman, M., "Changing Political Patterns in Bangladesh : Internal Constraints and External Fears," in Mohabbat Khan, Mohammad and H.M. Zafarullah (eds.), *Politics and Bureacracy in a New Nation Bangladesh*, Dhaka, Centre for Administrative Studies, 1980, p.188.

〔Riportara〕

"Janadaliya Mantrira Bada Parechena," *Riportara*, 30 Nobhembare, 1984.

〔Courier〕

Kabir, Borhan Syed, "A Brief Account of Reshuffles," *Courier*, Sept, 29-Oct. 5, 1989.

〔Chatterjee〕

Chatterjee, Basant, *Inside Bangladesh Today, An Eye-Witness Account*, Calcutta, S. Chand and Co. 1973.

上記の資料のうち、人名録として利用できるのは、BX, BA, PA, T82, T84 (うちBA, PAはベンガル語)である。T82とT84は基本的に同一の資料である。これら4ないし5の人名録を個人別に寄せ合わせ、比較的まとまった情報が得られたのは、149名のうち99名についてである。

これら資料に次ぐのが、OB, BI, Courierの三つの新聞・雑誌で、閣僚の異動を報道する記事から数名の情報を得た。その他の資料はさらに断片的な情報源である。また一件については本人の履歴書(CV)によっている。

また場合によっては編者の個人的な知識によって記述している場合や、全く情報がなく、単に付録1の情報を記述したにすぎない場合もあるが、そのような時は出所を記載していない。

また記述中に、収録対象者名が現れた時は\*を付してある。上記資料から得られたデータは、すべて個人別のファイルにまとめられている。

今回の試みは未だに不完全な状態にとどまってはいるが、この作業から得られた情報や知見は序章で展開された論旨に反映されている。また将来的には、単に独立後のバングラデシュだけでなく、イギリス植民地期の政治史、例えばフォズルル・ホクの農民プロジャ党(KPP)の活動やパキスタン運動、さらにパキスタン期の自治権運動までもを視野に入れた、ベンガル政治史研究の素材として役立てることができるであろう。

なお、この人名録作成のための資料収集に関し、白井桂、木曾順子、望月真弓の諸氏はか多数の方々の御協力を得た。記して感謝したい。

(編集：佐藤 宏)

## (1) Sheikh Mujibur Rahman

(シェイク・ムジブル・ラフマン)

[17. 3.20—15. 8.75]

出生地：フォリドプル／ゴバルゴンジ／  
トゥングィバラ家族等：父親の職業は県の民事法廷の事  
務官教育：ゴバルゴンジ・ミッションス  
クール (Matr) 1941イスラミア・カレッジ (IA)  
1944

" (BA)

1947 (独立前)

政治歴：1940年に政治活動を始める。同年全インド・ムスリム学生連盟 (AIMSF) の評議員、ゴバルゴンジのML書記長。1946年無競争でイスラミア・コレッジ学生自治会の書記長。1948年のEPMスリム学生連盟 (EPM-SL) の創設者の一人。同年3月11日ベンガル語国語化要求のゼネストに際し逮捕。1949年のAML結成とともに副書記長。1953年同書記長。1954年州議会選挙に当選。統一戦線内閣の農業・森林・協同組合相。同年5月内閣解任とともに逮捕 (12月釈放)。第二次制憲議会議員 (6, 1955—3, 1956)。1956年EP州政権の産業・商業・労働・汚職摘発相 (1957年辞任)。1958年のアユーブ・カーンによるクーデタで逮捕 (12, 1959釈放後も自宅監禁)。

1964年ALの再組織後、1966年委員長。同年2月6項目綱領を発表するが、5月8日に治安法により逮捕。19

68年1月17日に釈放と同時に再拘禁され、いわゆる「アガルタラ事件」に問われる。反アユーブ闘争により、1969年2月22日釈放。翌23日の学生闘争委員会主催の大集会で、「ベンガルの友 (Banga Bandhu)」の称号を得る。1970年12月7日の総選挙でALの大勝を導くが、円卓会議の失敗により、1971年3月3日よりパキスタン政府に対する非協力運動を本格化させる。3月7日の集会で東パキスタンの独立を宣言。同月25日パキスタン軍の軍事行動開始。同時に逮捕、西パキスタンに送還 (ミヤーンワーリーに投獄)。1971年4月13日、BD臨時政府樹立、大統領に推挙される。

BDの独立後、1972年1月10日に帰還。1月12日首相就任。同年12月14日新憲法の制定。翌年3月7日の総選挙により、議院内閣制のもとで首相に選出。

1975年1月24日BD農民労働者AL (略称BAKSAL) を結成。憲法の第四次改正により、1月25日大統領およびBAKSAL委員長に就任。同年8月15日軍事クーデタにより自宅にて殺害される。

[BX, BA, T82, OB27. 1.75]

## (2) Syed Nazrul Islam

(シヨエド・ノズルル・イスラム)

[1925— 3.11.75]

出生地：モイメンシン／キシヨルゴンジ  
／ジョシヨドル

教育：ダッカ大学 (BA) 1946  
 ダッカ大学(MA.; History)1947  
 " (LLB) 1953

職歴：パキスタン中央行政職試験合格  
 (1949)。所得税庁に入庁した  
 が辞職 (1951)。アノンド・モ  
 ハン・コレッジ (モイメンシ  
 ン) の歴史学講師(1951)。1953  
 年弁護士開業 (モイメンシ  
 ン)。

政治歴：1948年、ダッカ大学ショリムッ  
 ラ・ムスリム寮の学生自治会副議長、  
 1948年の「国語闘争委員会」のメン  
 バー。

1957年モイメンシン県ALの議長  
 (1972年まで)。1964年3月AL副議長。  
 1969年、アユーブ大統領の召集した円  
 卓会議へのALの代表の一人。1970年  
 国民議会選挙で当選。

1971年4月13日の臨時政府樹立とと  
 もに副大統領、また大統領代理。ダッ  
 カに帰還後、工業相 (→1975年1月24  
 日)。バングラデシュ憲法起草委員会  
 メンバー。1975年1月25日の大統領制  
 移行に伴い副大統領。1975年8月15日  
 クーデタ後、同23日に逮捕。同年11月  
 3日の獄中虐殺の犠牲者の一人。

[BX, BA, OB27. 1.75]

### (3) Tajuddin Ahmad

(タジュッディン・アフマド)

[1925— 3.11.75]

出生地：ダッカ／カパシア／ドルドリヤ

教育：ダッカ大学 (BA, Economics)

1946

" (LLB) 1965

政治歴：学生時代から全ベンガル・ムス  
 リム学生連盟、ベンガルMLで指導的  
 役割をはたす。パキスタン運動に積極  
 的に参加するが、独立後MLに批判的  
 となり脱退。1948年、1952年の (ベン  
 ガル語) 国語化闘争委員会の委員。19  
 51年4月、東パキスタン青年連盟の結  
 成に参画。1953年まで同組織の執行委  
 員。同年にALに参加。1952年2月の  
 言語運動で投獄。1954年、統一戦線の  
 候補として州議選に当選。州政府解任  
 後逮捕。1955年ALの文化・社会福祉  
 担当書記。1958～59年の間投獄。1962  
 年2月から8月の間、四度めの投獄。  
 1964年ALの組織担当書記。再度投獄。  
 1966年2月のラーホールにおける野党  
 会談に参加し、同年ALの書記長。  
 1966年3月8日、パキスタン防衛令で  
 逮捕。1969年のアユーブ・カーンによ  
 る円卓会議にAL代表の一員として参  
 加。1970年国民議会議員に当選。

1971年の独立戦争時は、4月12日に  
 ムジブナガルの臨時政府を樹立し、4  
 月17日に臨時首相に就任。1972年1月  
 10日、ムジブル・ラフマン\*の帰還後、  
 1月12日蔵相に就任。憲法起草委員会  
 委員。73年3月国民議会議員に選出。

1974年10月26日閣僚を辞任。75年8  
 月15日のクーデター後、ムスタック・  
 アフマド\*政権下の8月23日に逮捕。  
 同年11月3日獄中でカマルルザマン\*  
 らとともに殺害さる。

[BX, BA]



## (4) Khondakar Mustaq Ahmad

(コンドカル・ムスタック・アフマド)

[1918— ]

出生地：クミッタ

教育：キディルブル・アカデミー（カルカッタ）

ダッカ大学（LLB）

政治歴：言語運動委員会委員（1948?）。

AML創設とともに副書記長（1948?）。

1954年州議選において州議会議員となり院内幹事。1969年の反アユーブ闘争時に結成された民主行動委（DAC）の議長となり、アユーブ・カーンの招集した円卓会議に参加する。ALの副委員長および議会局のメンバー。1970年の総選挙で国民議会議員。独立戦争時の臨時内閣にて、外相、法律・議会相となる。独立後の第一次ムジブル・ラフマン\*内閣の洪水制御および水資源相。

臨時内閣の外相在任中、インドからの支援に批判的で、パキスタンとの和解を主張した。ムジブル・ラフマン\*の帰還以来、AL内におけるラフマン\*との対立が激化。BAKSAL結成にも反対。ラフマン\*暗殺後大統領に就任。ALより分裂しBDLを結成し議長に就任。

[BX, T84]

## (5) Md. Mansur Ali

(モハンモド・モンスル・アリ)

[1919— 3.11.75]

出生地：シラズゴンジ／カジプル／クリバラ

教育：シラズゴンジBLスクール（M-atr）1937

バブナ・エドワード・コレッジ（IA）

イスラミア・コレッジ（カルカッタ）（BA）1941

アリーガル・ムスリム大学（MA, Economics）1945

"（LLB）1945

職歴：バブナにて弁護士開業（1945）。

同協会会長に三度選出。

政治歴：1946～50年、バブナ県MLの副議長。1951年にALに加盟。ALにおいては、1953～66年および1972～75年の間、運営委員。1952年の言語運動に参加し、同2月投獄。1954年、統一戦線候補として当選。1956年9月アタウル・ラフマン\*州内閣の閣僚として、法律・議会問題相（9, 1956～3, 1957）、商業・労働・工業相（3, 1958～10, 1958）を歴任。1958年10月のクーデタで逮捕（1959年末釈放）。

60年代の6項目要求運動の主要な指導者の一人。

1968年10月ALの副議長の一人に選出さる。1970年12月の総選挙においてEP州議会議員。独立戦争時の臨時政府の財務相。

独立直後に財務、工業、天然資源相を務めたのち、運輸相（12. 1.1972～7. 7.1974）および内務、運輸相（8. 7.1974～25. 1.1975）を歴任。1973年

の国民議会選挙で当選。

1975年1月25日の大統領制への移行に伴って、首相に就任。BAKSALの創設によって書記長となる。同年8月15日のクーデタののち同月23日逮捕。タジュディン・アフマド\*らとともに1975年11月3日獄中で殺害される。

[BX, BA, OB27. 1.75]

- (6) **Abul Hasnat Md. Kamaruzzaman**  
(アブル・ハスナト・モハンモド・カマルッザマン)

[1926— 3.11.75]

出生地：ラジシャヒ(市)

教育：カルカッタ大学(MA, Economics) 1946

ラジシャヒ大学(LLB) 1956

職歴：ラジシャヒにて弁護士開業(1956年)

政治歴：1943～45年、全ベンガルムスリム学生連盟の副議長。1956年ラジシャヒ市議会議員に選出され、ALに加盟。1957～64年の間ラジシャヒ県AL議長。1962、1965年の二回にわたり基礎民主制のもとでの国民議会議員に選出。1962～64年、1965～69年の間、国民議会の統一野党議員団の書記長。1967～70年には、全パキスタンALの代表(Convenor)、1970～71年の間に、同じく書記長。反アユーブ闘争時の11項目要求を支持して、1969年2月、議員を辞任。アユーブ・カーンによって召集された円卓会議に、AL代表として参加。1970年の国民議会選挙においてラジ

シャヒより選出。独立戦争期の臨時内閣の救援・復興相。のち内相も兼任。独立以後は、救援・復興相、商業相を歴任。1973年選挙において再選されるが、74年1月18日、商業相を辞任。同20日にAL委員長(1975年2月まで)。その後、工業相、BAKSAL運営委員を務めるが、75年8月15日のクーデタで逮捕。投獄中にタジュディン・アフマド\*らとともに同年11月3日獄内で殺害される。

[BX, BA]

- (7) **Abu Sayeed Chowdhury**

(アブ・ショエド・チョウドゥリ)

[31. 1.21— 2. 8.87]

出生地：タンガイル/カリハティ/ナグバリ

家族等：元EP州議会議長アブドゥル・ハミド・チョウドゥリの子息。

教育：プレジデンシー・コレッジ(MA)

カルカッタ大学(LLB) 1940

リンカーズ・インにて弁護士資格取得 1947

職歴：イギリスで弁護士開業(1947)、1960～61年EP法務総裁。1960～61年アユーブ・カーンの任命した憲法委員会のメンバー。1969～71年ダッカ大学副学長。この間1961年以来、1972年までEP高裁判事。

政治歴：BD独立戦争時はロンドンにあって、在外バングラデシュ人の独立

運動を指揮。臨時政府の派遣した国連への特別代表団(16名)の団長。BD帰国後1972年1月12日に大統領就任。1973年4月10日、新憲法下の初の大統領に就任。同年12月24日辞任。

のち、コンドカル・ムスタック・アフマド\*政権期に外相をつとめる。ロンドンで死去。

[T84, BX, BI 7. 8.87]

(8) Md. Abdus Samad Azad

(モハンモド・アブドゥス・サマド・アーザード)

[? - ]

政治歴：ALの指導者。一貫してALの主流派にとどまる。BD直後のムジブル・ラフマン\*政権のもとで、外相、農業相など歴任。

(9) Sheikh Abdul Aziz

(シェイク・アブドゥル・アジズ)

[? - ]

政治歴：独立後のAL政権で農相、情報相をつとめるが、74年7月に辞任している。

(10) Md. Yusuf Ali

(モハンモド・ユスフ・アリ)

[? - ]

政治歴：独立戦争時はAL指導者としてムジブナガルの臨時政府側につく。臨時政府の宣誓式の主宰者であった。帰還後、72年1月の新内閣の教育・文化・スポーツ相。75年8月のクーデタ後

のムスタック政権の計画相。ALのほかではミザスル・ラフマン・チョウドゥリ\*の派に属し、AL, BAKSAL, AL(ミザスル派)に所属したのち、ジアウル・ラフマン\*暗殺後のアブドゥス・サッター\*政権にジュート・纖維相として入閣。エルシャド\*政権下では、与党JD(ジョノ・ドル)に参加し、救援復興相。

[Riportara, 30.11.84]

(11) A.H.Z. Ahmad Chowdhury

(A. H. ジョフル・アフマド・チョウドゥリ) [1916— 1. 7.74]

出生地：チッタゴン／?／カッター

教育：ダッカ大学(BA) 1944

政治歴：1944年ダッカ大学卒業後、労働運動に参加、チッタゴン・ドック労働者組合、同港湾労働者組合の結成。その後1946年の宗教暴動反対運動、1947年のシレットのレファレンダム、1949年ダッカ大学四級職員のストライキで活動。

1949年のAML結成とともに入党。

1951年には、チッタゴン支部を結成。

1951年、同県の食糧要求運動を指導。

53年には、AL運営委員会委員、57年に労働問題担当書記。

1952年チッタゴン市長に選出。54年の州議会選挙で統一戦線候補として当選。

1970年にも州議会議員に当選。

独立後も1973年の国民議会選挙に当選。

1971年3月25日のパキスタン軍の弾圧に先だつてムジブル・ラフマン\*は彼

のもとに独立宣言を送信したと伝えられる。独立戦争時は、解放委員会の東部支部長。

独立後は、保健・労働・社会福祉・家族計画相 (27.12.1971～12. 1. 1972) および労働・社会福祉相 (13. 1.1972～30. 6.1974)。

[BX, BA]

## (12) Phani Bhushan Majumdar

(フォニ・ブーション・モジュムダ  
ル)

[1901-30.10.81]

出生地：フォリドプル／ラジョイル／  
シェンディヤ

教育：マダリプル・ハイ・イングリッ  
シュ・スクール (Matr)

バンクラ・ウェルスリアン・コ  
レッジ (IA)

ビディヤシャゴル・コレッジ  
(BA)

リボン・コレッジ (LLB)

政治歴：1920年にいわゆる「テロリス  
ト」組織に加盟。同時に国民会議派党  
員。1930年4月のチッタゴン武器庫襲  
撃事件に関与してカルカッタにて逮捕  
(1938年釈放)。1941年1月20日、スバ  
ス・チャンドラ・ボースのインド脱出  
に際して逮捕されるまでボースとともに  
活動。1946年に釈放され、INA支援  
活動。

パキスタン独立後、1948年に逮捕。  
49年のAML創設以来AML (AL) で活  
動。1954年の州議選にて、マダリプル

・ゴバルゴンジ地域から当選。統一戦  
線政府解任後、投獄。1958年のクーデ  
タで投獄され、1962年に釈放。1965年  
から1969年まで再度投獄。1970年選挙  
では、ALの候補者として当選。独立  
戦争時は、臨時政府の顧問の一員。  
ジェソール・フォリドプル戦区の議長。  
独立後、食糧・供給相等を1975年まで  
歴任。その間、1973年に国民議会議員。  
1975年にBAKSALの中央委員、およ  
び大衆団体、国民農民連盟の書記長。  
1975年8月15日のクーデタ以後、ムス  
タック・アフマド\*内閣の地方行政・  
農村開発・協同組合相。1978～81年の  
間ALの副議長。1981年にはAL議長団  
の一員。

[BX, BA]

## (13) Kamal Hussain

(カマル・ホセン)

[20. 4. 37— ]

出生地：カルカッタ

教育：リンカーンズ・インで弁護士資  
格取得1959。オックスフォード  
大学 (PhD, International Law,  
1964)

職歴：ダッカ高裁弁護士 (1959)、パ  
キスタン最高裁弁護士 (1961)。

政治歴：1960年国民議会選挙で当選。19  
66年からムジブル・ラフマン\*の顧問  
役。1971年国民議会補欠選挙で当選。  
独立後は、憲法制定委員会委員。72年  
1月に法務・議会担当相。73年3月外  
務相 (74年7月以降鉱物資源、科学技

術兼任)。1975年8月15日のクーデタ後イギリスに亡命。1981年の大統領選にアブドゥス・サッター\* (BNP) の対立候補としてALより立候補。国際法、新国際法経済秩序などについての著作多い。

[T82, T84, BX]

14 M.R. Siddiqi

(M. R. シッディキ)

[? — ]

政治歴：第一次ムジブル・ラフマン\*内閣の商務相。

15 Shamsul Huq

(シヨムシュル・ホク)

[? — ]

政治歴：独立後の第一期ムジブル・ラフマン\*政権の地方行政・農村開発・協同組合相。AL内のミザヌル・ラフマン・チョウドゥリ\*派に属す。74年7月に閣僚辞任。のちAL (ミザヌル派) の副議長。ミザヌルとともにエルシャド\*政権のJDに参加。84年には情報・放送相。

[Riportara.30.11.84]

16 Matiur Rahman

(モティウル・ラフマン)

[? — ]

政治歴：独立後第1期ムジブル・ラフマン\*内閣の公共事業相、第2期内閣で地方行政・農村開発・協同組合相。74年7月辞任。

17 Md. Abdul Malek Ukil

(モハンモド・アブドゥル・マレク・ウキル)

[1. 10. 24—17. 10. 87]

出生地：ノアカリ/?/?ラジャプル

教育：ダッカ大学 (MA) 1950

〃 (LLB) 1951

職歴：弁護士。EP弁護士協会のメンバー (1966—69)

政治歴：パキスタン独立直後の言語運動に参加し、1948年3月、1952年2月、1954年6月に拘獄される。

ALのラジャプル郡議長 (1954) を経て、1963年ノアカリの県AL議長。その間1956年、州議会補欠選で当選。1962年の州議選でも当選し、ALおよび野党議員団議長。

1966年の6項目要求運動に参加し投獄。1970年の国民議選に当選。ALのノアカリ県議長。

独立後1972年4月に保健・家族計画相に任命。1973年選挙で国民議會議員。内相を経て1974年1月国民議會議長を務める。BAKSALの結成とともに、その運営委員。ムジブル・ラフマン\*暗殺後、76年11月にジアウル・ラフマン\*政権によって逮捕。

ALの分裂により、1978年3月AL (ウキル派) の委員長。

1986年国民議選選挙ではノアカリから当選、野党の副議員団長。

[T84, BI 23. 10. 87]

## (18) Molla Jalaluddin Ahmad

(モッラ・ジャラルッディン・アフマド)

[1. 2. 26—18. 12. 79]

出生地：フォリドプル／ゴバルゴンジ／ボロファ

教育：ゴバルゴンジ・ミッション・スクール (Matr)。フォリドプル・ラジエンドロ・コレッジ (I-A)。コロティア・サダト・コレッジ (BA)。ダッカ大学 (M-A, Political Science) 1952  
ダッカ大学 (LLB) 1953

職歴：弁護士

政治歴：1941年ベンガルムスリム学生連盟のフォリドプル市支部長，同県組織局長。1942～47年の間ベンガル州立法議会選挙に際して，MLの選挙副部長。1947年のシレット・レファレンダムの指揮をとる。

独立後MLに反対し，1948年の学生連盟，1949年のAMLの創設に参加。1949年ダッカ大学の下級職員のストライキ支援運動により退寮処分。

1964年1月25日のAL再建以来，シェイク・ムジブル・ラフマン\*の親密な協力者。1964年～1972年AL運営委員。6項目要求運動の組織化をはかって治安法により逮捕（1968年初頭に釈放）。アガルタラ事件では，ムジブル・ラフマン\*の弁護人団の一員。1969年の円卓会議にAL代表の一員として参加，1970年の国民議会選挙でフォリドプル第6区より当選。解放戦

争時には，独立への国際世論の支援を求め，臨時政府により中東に派遣され，ペイルート大使を務める。

独立後，郵便・電信相（12. 4. 1972—15. 3. 1973），森林・漁業・畜産，地租・土地改革相を歴任。健康上の理由から，1974年5月に辞任。1979年には，ゴバルゴンジから国民議会に三度めの当選。

[BX, BA]

## (19) Md.Sohrab Hussain

(モハンモド・ショホラブ・ホセン)

[? — ]

政治歴：独立後，第一期～第三期ムジブル・ラフマン\*政権で公共事業など歴任。大統領制移行後は閣内に入っていない。

## (20) Md. A. G. Osmani

(モハンモド・アタウル・ゴニ・オスマニ退役陸軍大将)

[1. 9. 18—16. 2. 84]

出生地：シレット／スナムゴンジ

教育：シレット・ガバメント，ハイ・スクール1934  
アリーガル・ムスリム大学 (BA) 1938  
インド・ミリタリー・アカデミー入学1939

職歴：1940年将校任用。1941年大尉。1942年最年少の少佐に昇進。第二次大戦中はビルマ戦線に参加。

パキスタン独立直前に中佐に昇進。1951—55年EPライフルズの副指揮官。1956年大佐に昇進。以降、1967年2月の退役時まで10年間総司令部付副局長の地位にとどまる。

政治歴：退役後の1970年ALに参加。同年の国民議会選挙で当選。BD独立戦争時の総司令官。1971年12月16日大将に昇進。72年4月総司令官職の廃止とともに引退。1972年4月～1974年5月の間ムジブル・ラフマン\*内閣の閣僚。ラフマン\*の一元制導入に反対して辞任。76年民族人民党結成。78年大統領選でジアウル・ラフマン\*と争うが敗れる。同じく81年の大統領選でも敗退。パキスタン時代の「ベンガル連隊」は彼の努力により創設された。

[T82, T84, BX, BA]

① (Dr.) Mafiz Chowdhury

(マフィズ・チョウドゥリ)

[? — ]

政治歴：1972年4月から、74年7月までムジブル・ラフマン\*のもとで電力、天然資源相など。

② Abdur Rab Serniabat

(アブドゥル・ロブ・セルニヤバート)

[3. 20—15. 8. 75]

出生地：ポリシャル／ゴウルノディ／  
ジョライル

家族等：ムジブル・ラフマン\*の義兄弟、

息子アブル・ハスナート\*

教育：ボラ・ハイ・イングリッシュ・  
スクール

プロジューモホン・コレッジ (B  
A)

ダッカ大学 (LLB)

職歴：弁護士

政治歴：民主党 (Ganatantri Dal) の結成 (1954) とともに、書記長。1957年7月NAPの結成とともに中央委員。1964年3月12日民族民主戦線 (NDF) の組織により、その書記委員の一人。1969年ALに加盟。1970—72年、AL運営委員。1970年国民議会議員に選出。独立後、土地行政・土地改革、洪水制御・水資源・電力相などを歴任。1973年の国民議会選挙で再選後、BAKSALの中央委員。1975年8月15日のクーデタで殺害。

[BX, BA]

③ Mizanur Rahman Chowdhury

(ミザヌル・ラフマン・チョウドゥ  
リ)

[1. 3. 31— ]

出生地：クミッラ／チャンドプル／ジュ  
リライ

教育：フェニ・コレッジ (BA) 1952

政治歴：1962年から69年までパキスタン国民議会議員。その間1966—67年はEPALの臨時書記長。1968—69年には国民議会における野党議員団長。独立後は1973—75年に国民議会議員。1972—73年放送・情報相、1973年に救

援・復興相に就任。ムジブル・ラフマン\*のBAKSAL結成に反対。

ラフマン\*暗殺後、自派（ミザン派）のALを結成し、主流（多数）派であるウキル\*派と対立。1983年にエルシャド\*大統領のJDに参加。84年12月に入閣。郵便・電信相をつとめたのち86年7月エルシャド\*大統領のもとで首相に就任する。88年3月モウドゥド・アフマド\*の首相就任により閣僚を辞任。

[T82, T84, BX]

#### 24) Abdul Mannan

（アブドゥル・マンナン）

[? — ]

政治歴：ALの労働戦線、スロミク・リーグの指導者。ALの分裂後ミザスル・ラフマン・チョウドゥリ\*派に属す。ムジブル・ラフマン\*のもとで、内相、保健・家族計画相。コンドカル・ムスタック・アフマド\*政権下でも保健・家族計画相となっている。

#### 25) Mohammadullah

（モハムマドゥッラ）

[21. 10. 21— ]

出生地：ノアカリ/?/サイチャ

教育：ダッカ大学（BA）1943

” （LLB）1948

職歴：弁護士をダッカで開業（1950）  
1960年にはダッカ高裁弁護士

政治歴：1951年に政治に参加。その後20年間ALの事務局長。EP州議会議員

および独立後の1973年国民議会選に当選。独立戦争時は、大統領代理への補佐官。独立後第二代大統領（27. 1. 74～21. 1. 75）。ムジブル・ラフマン\*の大統領就任に伴って、土地改革・土地行政相に就任。1975年8月15日のクーデタ後はモスタック・アフマド\*政権の副大統領。のち、BNPに参加、1980年7月に国民議会議員。

[T82, BX]

#### 26) Manoranjan Dhar

（モノロンジョン・ドル）

[21. 2. 04— ]

出生地：モイメンシン/?/チャタル

教育：カルカッタ大学（LLB）

政治歴：13歳の時に独立運動（いわゆるテロリストのジュガンタル党）に参加。投獄歴27年。1930年のチャッタゴン武器庫襲撃に参加。1946年州議会選挙に当選。東パキスタンにおける国民会議派の再建者。

1956年のAL一会議派州内閣の財務相兼マイノリティ問題相。

BD独立運動時には、ムジブナゴルに参加。1973年3月から75年1月まで法務・議会担当相。ムスタック\*政権のもとでも同ポスト。

[Chatterjee]

#### 27) Abdul Momen

（アブドゥル・モミン）

[?— ]

政治歴：BD独立直後ALの宣伝局長。



第三期ムジブル・ラフマン\*政権の食糧、援助・復興相。コンドカル・ムスタック\*政権でも同相。官僚のアブドゥル・モミン（カン）\*とは別の人物。

[OB13. 1. 72.]

28) Md. Korban Ali

(モハンモド・コルバン・アリ)

[1924— ]

出生地：ダッカ／ピクラムプル

教育：ダッカ大学 (MA, Economics)

1946

" (LLB) 1952

政治歴：1949年にAMLに参加。ダッカ県委員会の委員となる。1952年に言語運動によって投獄。その後も1954年に2回、1956、1962および1966年の3回にわたり投獄される。

1954年のEP州議選で当選、ALの院内幹事。1966年の6項目要求、69年の民主化運動に参加。1970年国民議会議会選挙ではALの選挙キャンペーン責任者。およびAL副議長。ムジブル・ラフマン\*の側近のひとりであった。

独立戦争時はムジブナガルの臨時政府、大統領代理の政治顧問。独立後は75年1月の大統領制移行後の新内閣に初入閣（情報・放送相）。

軍政後、約10年間の空白をおいて、84年、エルシャド\*のJDに参加、同年ジュート、繊維相に就任。85年11月の第2期エルシャド政権でも労働・人的資源相に就く。86年7月国民議会副

議長就任。

[OB27. 1. 75]

29) (Dr.) A. R. Mallick

(アジズル・ラフマン・マリク)

[11. 12. 19— ]

出生地：ダッカ

教育：ダッカ大学 (MA) 1943

ロンドン大学 (PhD, History)

1953

職歴：ダッカ大学講師を経て、ラジシャヒ大学歴史学教授。1965～71年の間、チッタゴン大学副学長 (Vice Chancellor)。

政治歴：独立戦争時に500人の解放戦争を指揮。独立後教育省事務長官 (Secretary)。インド駐在高等弁務官を歴任。75年1月に財務相、8月15日クーデタ後もひきつづき在任し、11月に辞任。

[OB27. 1. 75]

30) (Dr.) Muzaffar Ahmad Chowdhury

(ムザファール・アフマド・チョウドゥリ)

[23. 22. 23—17. 1. 78]

出生地：ノアカリ/?/ピラヒムプル

教育：フォラシュゴンジ・ハイ・イン

グリッシュ・スクール (Matr)

1938

フェニ・コレッジ (IA) 1940

ダッカ大学 (BA, Political Science) 1943. 1944年同MA.

ロンドン・スクール・オブ・エ

コノミックス (PhD) 1960

職歴：ダッカ大学政治学部講師

(1950), パキスタン制憲議会の法律顧問 (10. 1955—2. 1957)。1956年11月～1957年2月の間, 国連のパキスタン代表団員。1969年ダッカ大学教授。独立後は学長 (1. 72～4. 73)。その後大学補助金委員会 (UGC) の議長。閣僚辞任 (政治歴参照) 後, 政治学部教授に復帰。

政治歴：1952年2月21日の弾圧に抗議する教員集会でベンガル語の国語化を訴え投獄。1966年の6項目, 1969年の反軍政運動で, ALとともに活動。またこの時期のムジブル・ラフマン\*の顧問。69年の円卓会議のAL側の顧問。

独立後は, 教育・科学・原子力相 (26. 1. 75—8. 11. 75)。行政改革委員会の委員長などを歴任。Government and Politics in Pakistan (1968) など多数の著作。1981年にはベンガル語で教授の追悼論集も出ている。

[BA, OB27. 1. 75]

### (31) Asaduzzaman Khan

(アサドゥッザマン・カン)

[1. 12. 16— ]

出生地：モイメンシン/キショルゴンジ

教育：ダッカ大学 (BA) 1940(?)

〃 (LLB)

職歴：ベンガル文官職 (BCS) 1941

—52

ダッカ高裁弁護士資格1955

同弁護士会会長1969—70

BD弁護士協会々長 ?

政治歴：1938—39年にショリムッラ寮ムスリム学生自治会の議長。1965年EP州議会議員 (無所属)。その後州議会の野党議員団長。1969年にALに加盟。1970年の国民議会選挙で当選。

独立後は, 1975年にジュート相。72年の新憲法の起草委員会の委員。

[T82, T84, OB27. 1. 75]

### (32) Mahabub Alam Chasi

(マハブブ・アラム・チャシー)

[10. 27—4. 9. 83]

出生地：チッタゴン

教育：イスラミア・コレッジ (BA, Economics) 1946

職歴：1949年パキスタン外務職 (PFS) に採用。1966年7月に退職。独立戦争時には, 臨時外務事務長官をつとめる。独立後は, 農村開発・協同組合部の事務長官, BARD (BD農村開発アカデミー) の副所長。

政治歴：1975年8月20日大統領付特別秘書官, 同12月18日に同じく農業担当特別秘書官。自立 (Swanirbhar) 運動を提唱し, 自助努力, 住民参加等による開発の方向を示そうとした。ジアウル・ラフマン\*がこれを採用し, 水路の掘削など, 上からの自立運動を展開した。ハジ巡礼の途上の事故により死亡。

[T82]

## ③ Shafiqul Huq

(ジョフィクル・ホク)

[? — ]

政治歴：1975年8月15日のクーデタ後のアフマド\*政権の大統領顧問。直前まで灌漑・洪水制御省に所属していた官僚である。

り大統領に就任。タヘル大佐による再クーデタ後、戒厳司令官を兼任。ジアウル・ラフマン\*の登場後も、1976年11月29日まで戒厳司令官、77年4月20日には大統領を辞任。

[T84, BX]

## ④ Zahirul Huq

(ジョヒルル・ホク)

[? — ]

政治歴：1975年8月15日のクーデタ後のアフマド\*政権の経済顧問。工業開発銀行総裁であった。

## ⑤ Ziaur Rahman

(ジアウル・ラフマン)

[19. 1. 36—29. 5. 81]

出生地：ボグラ/?/バグバリ

教育：カラチにてmatr

職歴：(独立前) パキスタン陸軍に参加(1953)。将校に昇進(1955)。パンジャーブ連隊(1955~57)。東ベンガル連隊(1957)。陸軍情報関係の訓練、服務(1959~1964)。印パ戦争に際し第一東ベンガル連隊の歩兵隊を指揮し、ラーホールのケムカラン戦区にて戦闘(大尉?) (1965)。カクルのパキスタン軍事学校の指導官およびクエッタの幕僚将校(1966)。第二東ベンガル連隊副指揮官(ジョイデブブル)(1969)。新設の第8東ベンガル連隊に配属(チッタゴン)(1970)。

(独立後) 第8東ベンガル連隊に配属中BD独立戦争が始まる。1971年3月27日、チッタゴンのカルルガート放送センターよりムジブル・ラフマン\*の支持とBDの独立を宣言。1971年6月

## ⑥ A. S. Md. Sayem

(アブ・サダト・モハンモド・サエム)

[1916— ]

出生地：ロングプル

教育：ロー・コレッジ(カルカッタ大学)(LLB)

職歴：カルカッタ高裁弁護士(1944)。  
ダッカ高裁弁護士(1947)。  
1962年には、ダッカ高裁判事に就任。

1970年国民議会選挙時の選挙管理委員会委員。

独立後ダッカ高裁(後最高裁)の首席判事。1975年11月6日の大統領就任に伴い辞任。

政治歴：1975年11月3日のカレド・モジュラフ准将によるクーデタ後、コンドカル・ムスタック・アフマド\*に代

以降、学生、民間人、BDライフル部隊(BDR)を率いて“Z”部隊を編成、7月にはロングブルのモウマリに司令所を設立。12月にはシレットを占領。

独立後は、1972年に大佐に昇進、クミッラに配属。同年さらに准将に昇進。1972年6月陸軍副参謀長。ムジブル・ラフマン\*暗殺後1975年8月25日陸軍参謀長。11月3日のカレド・モシャラフのクーデタで解任されるが、11月7日のタヘル大佐の率いる「セポイの反乱」で参謀長に復帰し、副戒厳令司令官。1976年11月29日戒厳令司令官。

政治歴：1977年4月21日大統領就任。同年5月21日19項目の社会経済政策を発表。6月3日信任改案で圧倒的支持(77%)。直後に非宗教主義、社会主義を憲法の国是から抹消。ベンガル・ナショナリズムをバングラデシー・ナショナリズムと再定義。

1978年2月22日民族民主党(Jagodal)を創設。同年5月には同党、NAP(B), UPP, ML, LP, SCFを統合して民族戦線を結成し、その議長となる。1978年4月12日の大統領選にM. A. G. オスマニ\*を破って当選。9月1日には新党BNPを結成。

1980年2月19日にシャバルのジャボ村でSwanirbhar Gram Sarkar(自立村落政府)計画を開始する。1981年4月21日に南アジア地域協力(SARC)を

結成。1981年5月29日、チッタゴンにて、モンジュール中将の反乱で殺害される。

[T82, BX, BA]

### 37) Md. Hussain Khan

(ムハンモド・ホセン・カン海軍少将)

[? — ]

政治歴：サエム\*=ジアウル・ラフマン\*政権下で、海軍参謀長として副戒厳令司令官。

### 38) M. G. Tawab

(M. G. タワブ空軍少将)

[? — ]

政治歴：1975年11月のカレド・モジュラフ准将によるクーデタでジアウル・ラフマン\*とともに逮捕される。タヘル大佐の再クーデタで救出される。軍内におけるイスラム主義的右派のシンパとされる。ジアウル・ラフマン\*登場後空軍を率いるが、1976年4月にクーデタを試み失敗、ロンドンへ亡命。

[Rashiduzzaman]

### 39) K. Basher

(カデムル・バシヤル空軍少将)

[1935—1. 9. 76]

出生地：ボグラ

教育：サトキラ・プラノナート・スクール、ラジャヒ・コレッジ(ISC)。

職歴：1953年パキスタン空軍に参加。

1960—70年爆撃機大隊に配属。飛行大隊長を経て、1970年航空団長。独立戦争に参加。ロングプル・ディナジプル地区での戦闘を指揮。独立後は、1972年戦術航空団長、同年7月以降ダッカ空軍基地司令官。1973年空軍准将、1976年空軍参謀長および少将に昇進。ダッカ空軍基地での事故で死亡。

政治歴：サエム\* = ジアウル・ラフマン\* 政権のもとで、戒厳令副司令官、国内航空・観光、郵便、石油、食糧担当顧問。

[BA]

#### (40) Abul Fazal

(アブル・フォジョル)

[1. 7. 03—4. 4. 83]

出生地：チッタゴン／サトカニヤ／ケウチャ

教育：1910年、村のモクタブ（宗教学校）で教育。チッタゴン・ガバメント・マドラサ（1914—22）、イスラミック・インターミディエート・コレッジ（1923—24）。ダッカ大学（1925—27, BA—1928, MA—1938）

職歴：1930年から、ダッカ・イスラミック・インターミディエート・コレッジ、シータクンド・マドラサで教鞭。1941年以降クリシュナノゴル、チッタゴンなどでコレッジ教師。1959年退職。

チッタゴン大学副学長（1973）。1923年に創設されたムスリム文学会の一員。ムスリム知識人間での1920～30年代の「知の解放」運動の中心人物の一人。多数の文学作品、評論などによって知られる。「民族の良心」と讃えられた。

政治歴：ジアウル・ラフマン\*の顧問評議会で、労働・社会福祉、原子力、教育・文化・スポーツを担当（75年11月—77年6月）。

[BA]

#### (41) Qazi Anuwarul Haque

(カジー・アヌワール・ホク)

[2, 09—]

出生地：ダッカ

教育：ダッカ大学 (BA, Economics)

1931

職歴：1933年インド警察職 (IP) にトップの成績で採用、ロンドン (1950) とワシントン (1955) で訓練。1958年EP警視総監。1961—63年EP州首席長官。パキスタン公務委員会 (1962—65)。1965年3月に退職。その後、民間企業および公社の取締役に就任。

政治歴：1965—69, EP州教育、文化、保健、労働・社会福祉相。独立後は、1975年11月以降、サッタル\*第二期内閣まで、6年間以上継続して顧問ないし閣僚をつとめる。担当はジュート、

交通、土地改革・土地行政、地方行政・農村開発・協同組合、民間航空・観光、エネルギーと多岐にわたっている。

[T82]

(42) Md. Abdur Rashid

(モハンモド・アブドゥル・ロシド)

[16. 1. 19-6. 11. 81]

出生地：シレット／ホビゴンジ／ボガドゥビ

教育：ボビゴンジ・ハイ・スクール (Matr) 1936

シレット・ムラリ・チャンド・コレッジ (ISc) 1938

エンジニアリング・コレッジ (シボプル) (BE) 1942

カーネギー技術研究所 (DSc) 1948

職歴：1942-45の間、アッサム州公共事業局の技師補 (Assistant Engineer)。1948年12月、ダッカのアサスラ・エンジニアリング・コレッジの工学 (Civil Engineering) 部助教授。1949-54年の間同学部長。1954年9月に同校ではじめてのベンガル人の校長。その後新設の工科大学学長などを経て、70-71年には公務員委員会の委員長。独立後も科学技術審議会、公務員給与委員会などの委員を歴任。バングラデシュの技術教育面での第一人者であった。

政治歴：ジアウル・ラフマン\*政権下での公共事業相をつとめた。

[BA]

(43) Mirza Nurul Huda

(ミルザ・ヌルル・フダ)

[1919- ]

出生地：タンガイル

教育：ダッカ大学 (BA) 1940。

オナーズ合格者中最優秀のため Kalinarayan Scholarship を獲得。ダッカ大学 (MA.Economics) 1941。コーネル大学 (PhD, Agricultural Economics) 1949。

職歴：ダッカ大学・講師 (Economics) 1949, 同・教授

1965年東パキスタン州政府財務、計画相。1969年3月同州知事。1969年7月、大学に復帰。

東パキスタン時代に、いくつかの政府調査委員会のメンバー (例、租税調査委員会、第一次および第二次5カ年計画のための経済学者パネル)。1965年パキスタン経済学会会長。

政治歴：BD独立後、サエム\*大統領のもとで計画、工業、貿易担当顧問、ジアウル・ラフマン\*大統領のもとで計画担当顧問 (相)、財務相を歴任 (1980年4月辞任)。大統領暗殺後、サタール\*大統領のもとで副大統領を務める。

[T82, T84, PA]

## (44) Md. Ibrahim

(モハンモド・イブラヒム)

[? - ]

政治歴：サエム\*＝ジアウル・ラフマン\*

政権で保健・家族計画担任顧問をつとめた。

## (45) Benita Roy

(ベニタ・ロイ)

[? - ]

政治歴：サエム\*＝ジアウル・ラフマン\*

政権で保健・家族計画担任顧問をつとめた。

## (46) S. M. Shafiul Azam

(S. M. ショフィウル・アザム)

[1. 2. 24 - ]

出生地：チッタゴン／バブノゴル

教育：ダッカ大学 (MA) 1945

" (LLB) 1948

職歴：1949年のパキスタン文官試験に

トップの成績で合格。1949-50

年の間ラーホールとオーストラ

リアで訓練。県長官(補)、県長

官 (1951-56)

E P 政府の輸出入統制官など

(1959-63)

パキスタン政府の輸出入統制

官 (1964-65)

E P 産業開発公社会長

(1965-69)

E P 州政府首席長官

(1969-71)

E P 政府の輸出入統制官など

(1959-63)

親パキスタン派官僚となみさ

れ独立後、排斥されたが、ジア

ウル・ラフマン\*政権期に復帰。

1975-76内閣事務長官、76年7

月に計画委副議長。

政治歴：1977年12月にジアウル・ラフマ

ン\*の顧問評議会にジュート担当とし

て参加。BNP内閣の成立とともに辞

任するが、エルシャド\*軍政のもとで

再び顧問評議会に商業、工業担当とし

て参加 (27. 3. 82-22. 8. 84)。

[T82, T84, BI 6. 1. 84]

## (47) Abdul Gaffar Mahmood

(アブドゥル・ガッファル・マハムド空軍少将)

[1934 - ]

出生地：ノアカリ/?/ヤクブプル

教育：ダッカ大学飛行隊 1949

職歴：1952年6月に将校任用。1965年

の印パ戦争に参加。1970年カラ

チのパキスタン空軍スタッフ・

コレッジに勤務。

独立後、1973年に帰還。バン

グラデシュ航空(ビマン)の運

航・技術部門の部長ののち、74

年11月BD空軍に参加。チッタ

ゴン空軍基地司令官。77年12月

9日退役。

政治歴：1976年12月戒厳令副司令官とし

て、交通、水資源・洪水制御、エネル

ギー担当顧問。退役後は民間航空・観

光担当顧問(→28. 6. 78)。エルシャド\*によるクーデタ後、再び顧問評議会メンバーとして食糧を担当。政党人も加えた第一期エルシャド\*内閣まで食糧相をつとめる。

[T84, BI 6. 1. 84]

48) Syed Ali Ahsan

(シュエド・アリ・アフサン)

[26. 3. 22-]

出生地：ジェソール

教育：ダッカ大学(MA,English) 1944

職歴：同 講師(ベンガリー)

(1948-53)

カラチ大学ベンガル語学部長

(1953-60)

バンガラ・アカデミー所長

(1960-66)

チッタゴン大学ベンガル語教授

(1967-71)

独立後ジャハンギルノゴル大学副学長(1972-75)。その他チッタゴン、ラジシャヒ大学教授など。

政治歴：ジアウル・ラフマン\*の顧問評議会教育担当顧問(1977年6月から78年6月)。

[T84]

49) A. K. Md. Hafizuddin

(A. K. モハンモド・ハフィジュディン)

[? - ]

政治歴：サエム\*=ジアウル・ラフマン\*

政府のもとで、工業相をつとめた。

50) Jamaluddin Ahmad

(ジャマルッディン・アフマド)

[1. 3. 32-]

出生地：チッタゴン

家族等：父親はチッタゴンでの最初のムスリム医師の一人。

教育：ダッカ大学(MCom) 1953

イギリスの公認会計士資格

1961

政治歴：MLからBNPに参加。1977年10月にジアウル・ラフマン\*政権の工業担当顧問。1978年6月の新内閣で工業相、79年4月の改組に伴い副首相兼工業相。サッタル(第一期)\*内閣でも副首相兼工業相にとどまるが、エルシャド\*政権下で、在職中の汚職嫌疑に問われる。

[PA]

51) A. K. M. Azizul Huq

(アジズル・ホク)

[1. 2. 23-]

出生地：クミッラ

教育：ダッカ大学(MA,English) 1446

" (LLB) (1952)

ハーバード大学(MPA) (1960)

職歴：ダッカ・インターメディアート・コレッジでの英語講師(1944)。BD独立後はUNICEF顧問、アジア・太平洋総合農村開発センター(CIRDAP) 所長など歴任。

政治歴：1976年12月に顧問評議会に参加



し、農業担当。ジアウル・ラフマン\*  
大統領の顧問評議会および第一期内閣  
で農相。農村開発、開発行政の専門家。

[T 82, T 84]

52) Md. M. Huq

(モハンモド・M・ホク)

[? - ]

政治歴：サエム\*＝ジアウル・ラフマン\*  
政府のもとで、保健・労働・社会福祉  
相をつとめた。

53) Akbar Kabir

(アクボル・コビール)

[? - ]

家族等：フマユン・コビール（モウラナ  
・アーザードに代表されるナ  
ショナリスト・ムスリムの政治  
家）をはじめ著名な政治家、官  
僚を生んだコビール家の一員。

政治歴：ジアウル・ラフマン\*政府のも  
とで約一年間（27. 12. 76-10. 2.  
77）情報、放送相に就任。

[B X]

54) Shamsul Huda Chowdhury

(シャムシュル・フダ・チョウドウ  
リ)

[1920- ]

教育：プレジデンシー・コレッジ

(BA)

アリーガル・ムスリム大学

(MA) 1944

同

(L L B) 1944

職歴：1945年以來放送分野で活動。ラ  
ジオ・パキスタンの訓練部長、  
1967年までラジオ・パキスタン  
勤務。1970年放送再編委員会の  
委員長。

政治歴：1977年10月アクボル・コビール  
\*の後任として、情報、放送担当顧問。  
78年6月には文化・スポーツ相。ジア  
ウル・ラフマン\*大統領暗殺後、BN  
Pから離れ、M・A・モティン\*、レ  
アジュディオン・アフマド\*とJD創設  
の工作の中心となる。エルシャド\*大  
統領の第一期内閣で教育相。86年5月  
の選挙後に国民議会議長に就任。

[P A]

55) Saifur Rahman

(ショイフル・ラフマン)

[1931- ]

出生地：シレット／モウルビバジャル  
家族等：父モウルビ・アブドゥル・バン  
ルはイスラム知識人

教育：ロンドンで公認会計士資格（19  
58）。イギリスで経営学の訓練  
（1962）。

職歴：多数の内外の企業の会計士ない  
し顧問として活動。

1969-71年および72-73年の  
全国賃金審議会、1972年の紅茶  
産業審議会および1973年の工場  
労働者賃金審議会の委員。

1978年UNCTADにBD代  
表として参加し、債務軽減に貢

献。

政治歴：1952年の言語運動に参加，投獄。

1976年12月以降81年11月まで商務担当顧問ないし閣僚，その後サッター\*内閣のもとで財務相（27. 11. 81～11. 2. 82）。

[PA, OB28. 12. 76]

56) **Abdus Sattar**

（アブドゥス・サッター）

[1906-5. 10. 85]

教育：カルカッタ大学（MA） 1928

” （LLB） 1939

職歴：カルカッタ高裁弁護士 1941

カルカッタ市首席行政官 1945

ダッカ高裁弁護士 1950

ダッカ高裁判事 1957

パキスタン最高裁判事 1967

パキスタン選挙管理委員長として1970年選挙の実行にかかわる。

BD生命保険公社会長 1973

政治歴：A. K. フォズルル・ホク，スフラワルディらと親交。1954年第二次制憲議会議員に選出，56年に内相兼教育相。1957年以降，1975年まで政治を離れるが，1976年6月ジャウル・ラフマン\*大統領のもとで副大統領。81年5月のクーデタ後に大統領に就任するが，軍のクーデタにより82年3月その座を追われた。

[T82, BX, BI 11. 10. 85]

57) **Md. Shamsul Huq**

（モハンモド・シャムシュル・ホ

ク）

[12. 10- ]

教育：カルカッタ大学

ダッカ大学

ロンドン大学

職歴：ラジシャヒ大学副学長1965-69

ダッカ大学副学長 1975-76

独立前も，UNESCO総会（19

70），コモンウェルス教育会議

（1968）などに团长として参加。

独立後もUNESCO専門家会議

のメンバー，ウッドロウ・ウィ

ルソン国際センター（ワシント

ン）研究員（1971-73）など。

政治歴：ジアウル・ラフマン\*，サッター\*政府のもとで外相。SAARC結成に尽力。エルシャド\*のクーデタ後に大統領就任を打診されるが拒み，政治から離れる。その後，BD国際戦略研究所を創設。

[T84, BX]

58) **(Dr.) M. R. Khan**

（M. R. カン）

[? - ]

政治歴：ジアウル・ラフマン\*の顧問評

議会のメンバー。漁業・畜産担当。

59) **Abdul Momen Khan**

（アブドゥル・モメン・カン）

[1919- ]

出生地：ダッカ/チョルノゴルディ

教育：ダッカ大学（MA） 1941

職歴：ガバメント・コマーシャル・コ

レッジで教職(1942)。1945年に官界に入る。公共事業、食糧、内閣などの各省の事務長官を歴任。

政治歴：学生時代から、ムスリム学生連盟のダッカ支部長などの活動。BD独立後、1977年12月に顧問評議会の食糧担当。「民政化」後もBNPの執行委員。1979年国民議会選にノルシンディから当選。第一次サッタル\*内閣まで食糧相。

[T82, P A, O B 15. 7. 77]

⑥0 Ashfaq Hussain Khan

(アッシュハク・ホセン・カン)

[1927— ]

出生地：シレット/モウルピバジャル  
教育：ランチ, アラハバード, カルカッタで教育。

カルカッタ大学 (MA, Geology)

職歴：1949年バーマ・オイル社に勤務。1965年パキスタン石油社の技術マネージャー。1969年バーマ・イースタン社, 1974-75年イースタン・リファイナリー社, (チッタゴン) 総支配人。1974年9月~1977年2月ペトロ・バングラ社探査・生産局長。

政治歴：1977年7月12日, ジアウル・ラフマン\*の顧問評議会に参加, 石油・鉱物資源担当。任命直前まで, BDにおけるバーマ石油グループの代表。ペトロ・バングラ社の顧問であった。

[O B 13. 7. 77]

⑥1 (Dr.) Muzaffar Ahmad

(ムザファール・アフマド)

[22. 8. 37— ]

出生地：ダッカ

教育：ダッカ大学 (MA) 1956

シカゴ大学 (PhD) 1965

職歴：ダッカ大学講師 (経済学) 1957

同 リーダー ( " )

ユナイテッド銀行の経済顧問

1967-68

E P 工業開発公社計画担当官

1964-72

独立後は計画委の工業部長

1972-74

政治歴：ジアウル・ラフマン\*の顧問評議会で繊維担当。代表的著作にラフマン・ショバンとの共著 Public Enterprises in an Intermediate State (1980) がある。

[T82, T84]

⑥2 B. M. Abbas

(B. M. アッバス)

[? — ]

教育：プレジデンシー・コレッジ, ベンガル・エンジニアリング・コレッジ (シボプル, カルカッタ) と進む。

1934年にBE資格を習得。

職歴：灌漑工学専門家, BDにおける河川, 水資源問題の権威。UNESCOの洪水予測専門家パネルのメンバー, 国際法律協会

の国際河川資源法委員会のメンバー。

[T82, P A]

政治歴：ジアウル・ラフマン\*の顧問評議会で水資源、洪水制御、エネルギー担当。第一期内閣にも入閣。同じ部門を担当。

[著書 Ganges Water Dispute のカバー, OB10. 12. 78]

### 63 Md. Majedul Haque

(モハンモド・マジドゥル・ホク 退役少将)

[1926— ]

出生地：ジェソール

教育：デリーで一時教育を受ける。のちインド(シボプル)とパキスタンで工科教育を受ける。

さらにイギリスで訓練のち、アメリカ、バージニアのフォリト・ベルヴェアルで訓練。

職歴：デラ・ドゥンのインディアン・ミリタリー・アカデミーで工科部隊の将校に任用。クェッタのスタッフ・コレッジ卒。カラコルム・ハイウェイの建設にも従事。1969-70年の間EP州の行政に出向。

BD帰還は1973年。鉄鋼、化学など数会社の会長を経て1976年1月には工業事務長官。

政治歴：ジアウル・ラフマン\*の顧問評議会で交通担当顧問、のち1982年2月まで人事部担当相。この間BNPに参加。国民議会選挙に当選。

### 64 Nurul Huq

(ヌルル・ホク)

[1. 36— ]

出生地：ダッカ(市)

教育：アルマニトラ・ガバメント・ハイ・スクール(Mat) 1950  
ダッカ・コレッジ(ISC) 1952  
ダッカ大学(中途退学)

家族等：父親はカン・バハドゥル・アブドゥル・カレク(パキスタン独立前のベンガル州議会議員)

職歴：1953年に海軍に参加。イギリスの王立海軍コレッジ、王立工科コレッジ等に学ぶ。独立直前はカラチ海軍司令部勤務。独立戦争に伴って、司令部を脱出。BD独立後の初代の海軍参謀長。同時にBD内陸運輸公社会長。

政治歴：ジアウル・ラフマン\*政権下で、港湾・船舶・国内水運担当の顧問および閣僚に任命。

[T82, P A, OB11. 4. 72]

### 65 Moudud Ahmad

(モウドド・アフマド)

[1940— ]

出生地：ノアカリ

家族等：父はマオラナ(イスラム知識人)であった。夫人は詩人、ジョシムッディンの長女、ハンナ・ジョシムッディン

教育：ダッカ大学(MA, Political

Science), リンカーンズ・イン  
(パリスター)

職 歴: 弁護士, ダッカ高等裁判所弁護士 (1966), BD最高裁弁護士 (1974?) 「市民的自由と法的扶助」委員会書記長。

政治歴: 1852年の言語運動に際し投獄。

東パキスタン時代にロンドンで結成されたグループ「East Pakistan House」の書記長。“Asian Tide”, “Purba Bangla”などの出版物を発行。

アガルタラ陰謀事件の公判において被告側の弁護士として, イギリスの弁護士C. ウィリアムス卿をひき出す工作を行う(この間の事情は著書Bangladesh, Constitutional Quest for Autonomyに詳しい)。1969年のアユーブ・カーンによって招集された円卓会議での, ALの憲法草案の作成にかかわる(同じく前掲書)。独立戦争時, ロンドンで活動し, BD政府の公報誌, Bangladeshの発行にかかわる。

BD独立後, 最高裁弁護士に登録。1977年ジアウル・ラフマン\*の顧問(閣僚)会議に郵便・電信担当として参加。78年6月の改組で留任。1979年国民議会選挙で当選。洪水・電力, 水資源相とともに副首相に就任(1980年に辞任)。

エルシャド\*大統領のもとで, 85年通信相に就任。86年7月改組にともない副首相兼工業相。

1988年3月首相に任命。エルシャド\*政権の「民政化」の中心的担い手。

1989年8月副大統領に就任。

[P A, T84, B X]

66) A. Z. M. Enayatullah Khan

(A. Z. M. エナヤトウッラ・カン)

[1938— ]

出生地: モイメンシン

家族等: 父親アブドゥル・ジャッバル・カンはパキスタン国民議会議長。

教育: ダッカ大学(MA, Philosophy)

1960

職 歴: ションバド紙記者 1959

パキスタン・オブザーバー紙記者 1959-63

ホリデー紙発刊 1965

バンガラデッシュ・タイムズ編集長に一時就任し, 現在はホリデー紙編集長

政治歴: パキスタン時代の学生運動では、バシヤニに近いEPSU(東パ学生同盟)に所属。BD独立前の1971年と独立後の1975年に投獄。1975年釈放後, 1977年12月にジアウル・ラフマン\*の顧問評議会に土地改革・土地行政相当として参加, しかし約10カ月で, 同じく左派系指導者として同政権に協力していたカジ・ジャファル・アフマド\*とともに辞任。

[T82, T84]

67) A. Q. M. Badruddoza Chowdhury

(A. Q. M. ボドルドゥザ・チョウドゥリ)

[? - ]

家族等：父コフィルドゥディン・チョウドゥリはE P州政府閣僚経験あり。

教育：セント・グレゴリー・ハイスクール、ダッカ・コレッジ、ダッカ・メディカル・コレッジ。またイギリスのウェールズ大学、エディンバラおよびグラスゴウの王立医学コレッジで専門教育 (MRCP)。

職歴：ダッカ・メディカル・コレッジで教鞭、同校の名誉教授。BD独立後、結核に関する各種の国際会議に団長として参加。

政治歴：1977年12月にジアウル・ラフマン\*の顧問評議会に保健・家族計画担当として参加。BNPの書記長も歴任。

[ P A ]

## 68) Zakaria Chowdhury

(ザカリア・チョウドゥリ)

[? - ]

政治歴：ジアウル・ラフマン\*の顧問評議会で労働・社会福祉、人的資源を担当した。

[ B X , B A ]

## 69) Mashur Rahman

(モシウル・ラフマン)

[ 9 . 7 . 24 - 13 . 3 . 79 ]

出生地：ロングプル/ディムラ/カガコリバリ

政治歴：ジャドゥ・ミヤの名で知られる。若冠29歳でロングプル県評議会の議長

に選出され、1960年まで在任。ML党員として政治活動に入る。パキスタンMLの中央委員もつとめる。1957年のNAP創設時の一員。1962年に国民議会議員、同議会における野党議員団の副団長。この間一度投獄。1965年の国民議会選挙で当選。しかし1969年には、反アユーブ・カーン闘争のもとで、モウラナ・バシヤニの呼びかけに応じて辞任。1970年、NAPの全国および州組織の書記長。

独立戦争に際しては一時期インドに避難するが、後にパキスタン軍に投降し、解放戦争に対立する。独立後(対パキスタン)協力者として一時逮捕される。1975年8月釈放。

1977年、モウラナ・バシヤニの死後、NAP委員長に選出。1978年6月ジアウル・ラフマン\*大統領のもとで、同党は大統領の民族主義戦線(のちBNP)に合流、入閣し、首席大臣兼運輸相に任命される。1979年国民議会議員に選出。首相就任が確実視されていたが、選挙直後に急逝。

[ B X , B A ]

## 70) Shah Md. Azizur Rahman

(シャール・モハンモド・アジズル・ラフマン)

[ 23 . 11 . 25 - 1 . 9 . 88 ]

出生地：クシュティヤ

教育：ダッカ大学(英文学、生理学)

〃 (LLB) 1951

職歴：弁護士

EP弁護士協会書記長  
全パキスタン弁護士協会運営委員

政治歴：全インドムスリム学生連盟(A-IMSF)書記長(1945-47)。パキスタン独立後、EPML副書記を経て書記長(1952-58)。

1964年ALに加盟。同年に国民議会の野党連合の議長。1969年には国民議会における野党議員団副団長とAL議員団長を兼任。BD独立に反対し、国連で演説を行った。そのため独立後一時逮捕される。

釈放後は1978年6月29日、労働・社会福祉相に就任ののち、79年に国民議会議員に選出。ジアウル・ラフマン\*大統領のもとで首相に就任(1979年4月)。BNPの副議長。大統領暗殺後、BNP主流派(カレダ・ジア派)と対立して除名される。

[T82, T84, PA]

(71) Abdul Halim Chowdhury

(アブドゥル・ハリム・チョウドゥリ 退役少佐)

[1.2.28 - 8.10.87]

出生地：ダッカ/マニクゴンジ

職歴：大学卒業後1950年パキスタン陸軍に参加。

兵站将校付きの副官(パンジャブ連隊)ののち、第14管区の司令官付き副官(ADC)。1962年退役、EP産業開発公社に就職。

政治歴：1966年NAP(ムザファル派)に入党。BD解放戦争に参加。1974年にUPPに入党し、78年まで党首。のちジアウル・ラフマン\*の民族主義戦線に参加し、同年地方行政・農村開発・協同組合相。サッタル\*第一期内閣までこのポストにとどまる。エルシャド\*政権期も1984年の第一期内閣にUPPを率て農業相として参加している。

[PA, BI16.10.87]

(72) Mustafizur Rahman

(ムスタフィズル・ラフマン 退役中佐)

[1934 - ]

出生地：クルナ/バゲルハト/ロンビジョイプル

家族等：父はパキスタン独立前、ベンガル州の酒税徴収官。

教育：セント・ザビエルズ・スクール、セント・グレコリー・スクール、ダツカ・コレッジ。

職歴：1952年パキスタン陸軍に参加。1955年に将校任用。この間ベジャーワル大学でBA取得。歩兵旅団の幕僚将校としてパキスタン各地に駐在。

BD帰還は1973年。中佐で退役、民間会社に参加

政治歴：ジアウル・ラフマン\*の第一期内閣に内相として参加。BNP幹部として、1979年国民議会に当選。ふたたび内相。サッタル\*第一期内閣までこの地位にとどまる。

[P A, T82]

73 Rasraj Mandal

(ロスラジ・モンドル)

[ ? - ]

政治歴：ジアウル・ラフマン\*の第一期内閣で、救援・復興相。指定カースト連盟 (Taphsili Federation) の議長。

74 S. A. Bari

(S. A. バリ)

[1927 - ]

出生地：ディナジプル  
 家族等：父親はイスラム学者 (maulvi)。  
 政治歴：1950年代の学生運動の中心人物のひとり。51年の学生連盟の創設者。のち左派系の学生組織学生同盟 (ユニオン) の創設にあたり書記長。52年の言語運動で投獄 (一年間)。モラウナ・バシヤニと交流し、農民運動に参加。60年代の反アユーブ運動、71年の解放戦争に参加。1977年NAP (B) 書記長。モシウル・ラフマン\*とともに第一期ジアウル・ラフマン\*内閣に参加し、社会福祉、人的資源相。第二期内閣では副首相も兼任。

[P A]

75 Amina Rahman

(アミナ・ラフマン)

[1950 - ]

教育：イエール大学 (PhD) 1950  
 職歴：ナンショナル・ラボラトリー (ブルック・ヘイブン、研究員)

ダッカ大学講師 (化学) 1951  
 数年後教職を辞し、教育機関の設立に専念。リトル・エンジェルス、キシュロイ、等の幼稚園から、ホリー・クロス・コレッジまで多数の学校の設立にかかわる。

政治歴：ジアウル・ラフマン\*政権期に婦人問題相 (29.6.78 - 24.4.80)。

[P A]

76 Mirza Golam Hafez

(ミルザ・ゴラム・ハフェズ)

[1.2.1920 - ]

出生地：ディナジプル  
 教育：ダッカ大学 (MA.Economics) 1941  
 " (LLB) 1948  
 職歴：弁護士、東パキスタン弁護士協会および全パキスタン弁護士協会副会長 (1967-69)  
 ダッカ大学評議員会員 (1953~58)、中国友好協会会長 (1956~58)、ダッカ商工会議所会頭 (1976)、BD弁護士協会会長 (1973)

政治歴：学生時代の1938年に全インド・ムスリム学生連盟 (AIMSF) に参加。ジョルバイグリ県の支部長。1945~47年の間、ムスリム民族防衛隊の州副指揮官 (Nayeb-e-Salar-e-Suba)。1951~58年の間民主党の財政部長。54~58年の間は州議会議員 (タクルガオン選挙区)。



BD独立後は、ジアウル・ラフマン\*大統領のもとで、地租・土地改革相(1978~79)、のち、国民議会議長に就任(2.4.1979)。

[P.A. T82, T84]

(77) K. M. Obaidur Rahman

(K. M. オバイドゥル・ラフマン)

[5.5.40 - ]

出生地：フォリドブル

教育：ダッカ大学(BA, MA)

政治歴：1963-65年の間 EP学生連盟の議長。66-71年ALの社会福祉担当書記。独立後73-75年の間郵便・電信担当閣外相。ジアウル・ラフマン\*の第一期、第二期内閣の漁業・畜産担当相。1988年現在BNP(カレダ・ジア派)の書記長。

[P.A.]

(78) Abdul Alim

(アブドゥル・アリム)

[1930 - ]

出生地：フグリ(西ベンガル)/バンドゥア

政治歴：1946-47年、フグリ・モフシン・コレッジのムスリム学生連盟の書記長。同県のムスリム民族防衛団の指揮者。1965-72年の間ボグラ県評議会の副議長。

ジアウル・ラフマン\*第一期政権に繊維相として入閣し、第二期政権では交通担当相。対パキスタン協力者のひ

とり。シャー・アジズル・ラフマン\*のグループに属す。

[P.A.]

(79) Habibullah Khan

(ハビブッラ・カン)

[31.1.35 - ]

出生地：クミッラ/ノビノゴル/ロスッラバード

家族等：父は元EP州議会議員。ノビノゴル・コレッジの創立者。ザミンダール。

教育：ダッカ、アリーガル、ロンドンで教育。

職歴：1958年カラチのGM工場に技術者として採用。1963年退職。EPで、ガンダーラ・インダストリーズ社を創設。1968年取締役。独立後同社のチャッタゴン支社がプロゴティ・インダストリーズ社に改名。1976年にイスラム・グループのナヴァナ社に取締役として就任。

政治歴：ジアウル・ラフマン\*の第一期、第二期内閣に情報・放送相として入閣。

[PA, OB30.6.78 ]

(80) Abdur Rahman

(アブドゥル・ラフマン)

[7.8.20 - ]

出生地：ダンガイル/? /チトキバリ

教育：ピンドゥバシニ・ハイ・スクールおよびサダト・コレッジ(コ

ロティア)

政治歴：1938年全ベンガルムスリム学生連合（ABMF）のメンバー。44年タンガイル郡MLの書記長補，モイメンシン県MLの副書記長。48年AMLに参加，55-58年の間モイメンシン県評議会議員。のちにNAP（B）に参加。62年同党の副議長。ジアウル・ラフマン\*の第一期，第二期内閣で公共事業・都市開発相。サッタル\*第一期政権で宗教問題相。

[PA]

## ⑧1 Kazi Zaffar Ahmad

(カジ・ジャファル・アフマド)

[1940 - ]

出生地：クミッラ / ? / チェオ  
ラ

政治歴：1966年，トンギ（ダッカ北郊）工業地帯で労働運動に参加する。学生（ダッカ大学？）時代はE P 学生同盟（E P S U）の書記長，ダッカ大学歴史協会の書記，ダッカ大学文化協会の書記長など。

1970年以降は，ベンガル労働者連合（B S F）の議長。

独立戦争に積極的に参加した。すでに1970年2月にベンガルの独立を主張し，軍事法廷から7年間の拘禁宣告。

独立後は1972-74年の間N A P（B）の書記長。1974年にアブドゥル・ハリム・チョウドゥリ\*やロンド・カン・メノンらと統一人民党（U P P）を結成し，書記長。

ジアウル・ラフマン\*政権下の民族主義戦線にU P P を参加させ，委員長のアブドゥル・ハリム・チョウドゥリ\*とともに入閣し，教育担当相（29.6-11.1）。エルシャド\*政権のもとでもエルシャド\*の政治顧問格として，副首相の地位についている。1989年8月首相に任命。

[OB30.6.78]

## ⑧2 Abdul Baten

(アブドゥル・バテン)

[1926 - ]

出生地：ポトゥアカリ / ? / ダジュ  
ミナ

教育：アルマニトラ・ガバンメント・ハイスクール，ダッカ・コレッジ，ダッカ大学。のちミンガン州立大学でも学ぶ。

職歴：ダッカ大学講師，その他数多くのコレッジでの教員経験あり。1969年イスラマバード大学のレジストラー。大学補助金委（U G C）のメンバー。

政治歴：カジ・ジャファル\*の辞任のあと教育を担当。

[OB10.12.78]

## ⑧3 Akbar Hussain

(アクボル・ホセン退役中佐)

[1941 - ]

出生地：クミッラ

教育：ダッカ大学卒

職歴：1965年陸軍に入隊。66年に将校

に任用。71年の解放戦争に参加。  
74年に退役。

政治歴：退役後、アブドゥル・ハリム・  
チョウドゥリ\*のUPPに副党首とし  
て参加。78年の国連代表団に参加、安  
保理の非常任理事国選挙に貢献した。  
第一期、第二期ジアウル・ラフマン\*  
内閣に石油・鉱物資源相として入閣。

[PA]

#### 84) Nurul Islam

(ヌルル・イスラム退役少将)

[ ? - ]

出生地：バコルゴンジ／ピロズプル

教育：セント・フランシス・スクー  
ル、セント・グレコリー・ス  
クールののちダッカ・コレッジ  
(ISc)  
ダッカ大学中退 (BA.Geogra-  
phy)

職歴：1959年陸軍に参加。将校任用の  
のちペシャール大学で学士  
号、第二ベンガル連隊所属。軍  
情報局 (ISI) 将校。解放戦  
争参加。

独立後は少佐としてロングブ  
ルで第18東ベンガル連隊の指揮。  
72年末中佐昇格、第44旅団 (ク  
ミッラ) の指揮をとる。73年に  
大佐、翌年シンガポール、ラン  
グーンなどで駐在武官。

政治歴：戒厳司令官付首席秘書官とし  
て、ジアウル・ラフマン\*の側近。彼  
の「民政化」政策の重要な推進役とさ

れる。この間1976年に旅団長、78年12  
月に少将に昇格。79年の国民議会選挙  
に当選、農業・森林担当相となる。

[PA]

#### 85) Fasiuddin Mahtab

(ファシウッディン・マハタブ)

[ ? - ]

政治歴：エンジニアとして、ジアウル・  
ラフマン\*の顧問評議会に農業担当副  
顧問として参加 (77年12月)、その後  
ジアウル・ラフマン\*のもとで農相、  
計画相、サッタル\*大統領のもとで、  
財務相、農相をつとめる。

#### 86) (Dr.) M. A. Matin

(M. A. モティン)

[1.12.37 - ]

出生地：パプナ

教育：1953年Matr, ダッカ・メディカ  
ル・コレッジ卒。1964年ロンドン  
で医師資格、67年エディンバラ  
で眼科医師資格取得。FRC-  
SE。

職歴：ロンドンの王立眼科病院勤務。  
ダッカのビー・ジー・ホスピタ  
ルで助教授。72年に眼科部門の  
教授。その後軍病院の顧問。

政治歴：BNPに参加し、1979年国民議  
会選挙に当選。保健・家族計画相。ジ  
アウル・ラフマン\*暗殺後もサッタル\*  
内閣の内務相。BNP内ではシャム  
シュル・フダ・チョウドゥリ\*と行動  
をとるとし、エルシャド\*に協力し、

1984年には商業相。のち公共事業相を経て副首相兼内務相へと昇格、カジ・ジャファル・アフマド\*、モウドッド・アフマド\*とならぶエルシャド\*政権の柱となる。

[ P A ]

## ⑧7 Khondkar Abdul Hamid

(コンドカル・アブドゥル・ハミド)

[ 1.3.18 - 23.10.83 ]

出生地：ジャマルプル／シェルプル

家族等：著名な画家カユム・チョウドウリの義父。

教育：カルカッタ大学 (BA) 1940

職歴：1946-48年スワラワルディの発行したイッテハド紙の副編集長。1953-56年ダッカのミッラト紙、1969年アーザード紙の編集長。1960年代にはイッテファク紙のコラムも担当。独立後はイッテファク、ジョンバド両紙のコラムを担当。

政治歴：1953年にALに参加。1954年にAL、1956年にML (評議会派)の公認で州議会議員に当選。1956-58年の間州議会の院内共闘幹事。BDの独立に際し、パキスタン代表団に加わり国連で反BDの態度を表明。独立後逮捕。1973年に釈放。1979年にBNPに参加。国会議員選挙に当選し、青年問題担当相。1980年に辞任。サッタル\*第二期政権で、保健・衛生、社会福祉相に再起用された。

[ T82, T84, BA ]

## ⑧8 Abdul Rahman Biswas

(アブドゥル・ラフマン・ビッシャス)

[ 1926 - ]

出生地：バコルゴンジ／シャエスタバード

家族等：父親は宗教指導者。

教育：ポリシャル・ジラ (県)・スクール (Matr)

ブロジ・モホン・コレッジ

( I A )

ダッカ大学 (MA, History)

" ( L L B )

職歴：弁護士開業 (1955)、ダッカ高裁弁護士 (1959)、BD法律家協会副会長 (1976)

政治歴：1948年ジンナーのダッカ訪問に際しベンガル語の国語化を主張した学生のひとりであった。1962、65の両年州議会選挙に当選。1967年国連総会にパキスタン代表のひとり。BD独立戦争に貢献。1974年ポリシャル弁護士会会長。76年ポリシャル市議会議員。ジアウル・ラフマン\*の第二期内閣でジュート相 (16.4.79 - 24.4.80)。

[ P A ]

## ⑧9 Emran Ali Sarkar

(エムラン・アリ・サルカル)

[ ? - ]

出生地：ラジシャヒ

政治歴：1939-58年の間ラジシャヒ県M

Lの書記長。その間44-48年の間、ムスリム民族防衛団の県指導者。また北ベンガル甘蔗栽培農民組合の議長。50-58年の間ラジシャヒ市議会副議長。その後モウラナ・バシヤニのNAPに参加。県書記長、中央執行委員。1976年のファラッカ行進の組織者。77年同市議会議長。

後にジアウル・ラフマン\*の国民戦線を経てBNPに参加。国民議会議員に当選。救援・復興相。サッタール\*の第一次内閣でも同じポスト

[ P A ]

90) Md. Abdul Huq

(モハンモド・アブドゥル・ホク)

[ 15.11.26 - ]

出生地：ノディア／ウルシー

教育：ダッカ大学 (BSc)

〃 (LLB)

職歴：クシュティアにおいて弁護士開業

1960年ダッカ高裁弁護士、65年高裁弁護士協会の事務局長。

政治歴：学生運動はノディア（西ベンガル）のクリシュナノゴルにて。クシュティアにおいて1952年の言語運動の指導をする。1962年国民議会議員に無所属で当選、のちNAPに参加。

BD独立後、1977年に訪ソ、訪ブルガリア代表団員。のちBNPに参加。1979年国民議会選挙に当選。土地改革・土地行政相（16.4.79 - 24.4.80）。

[ P A ]

91) Md. Mansur Ali

(モハンモド・モンスル・アリ)

[ 26.9.32 - ]

出生地：クルナ／ドルバリヤ

教育：ダッカ大学 (MA)

〃 (LLB)

職歴：ダッカ高裁弁護士

政治歴：1952年言語運動に参加し投獄。

1955-56年、ダッカ大学フォズルル・ホク察自治会副議長。スフラワルディの呼びかけた全国民主戦線 (NDF) の結成にクルナ (市) で参加。68年にはALに参加し、クルナ県書記長。

独立後は1978年にジアウル・ラフマン\*のBNPに加入、中央委員のひとつとなった。第二期ジアウル・ラフマン\*内閣の繊維相。

[ P A ]

92) A. K. M. Mayeedul Islam

(A. K. M. マイドゥル・イスラム)

[ 1.5.43 - ]

出生地：アッサム (インド)

家族等：父アブル・カシェムはパキスタンMLの指導者。

教育：ラジシャヒ・コレッジ (退学処分)

カラチ大学 (MA. Political Science)

職業：父の名を冠したカシェム (Quashem) グループ社の会長。傘下に繊維、製材工場など数社。

政治歴：1962年反アユーブ・カーンの学生運動により、ラジッシャヒより退校処分。カラチ大学でEP学生連合の議長。BNPの中央委員として、1979年国民議会選に当選、郵便・電信相となる。BNPのなかではアジズル・ラフマン\*派に属する。サッタル\*政権下でも閣僚をつとめる。エルシャド\*政権下でも1985年11月の第二期内閣以降、一貫して閣僚をつとめる(土地改革・土地行政相、港湾・船舶・国内水運相、ジュート相)。

[PA, T82, T84]

93) Reazuddin Ahmad

(リヤジュディン・アフマド)

[1.3.25 - ]

出生地：ロングブル／クリグラム(市)  
政治歴：1940-47年、全ベンガル・ムスリム学生連盟の活動家としてパキスタン運動に参加。1952-68年クリグラムのAL支部長。1970年国民議会選に当選。独立戦争に参加。1973年の国民議会選にも当選。同年4月から10月まで与党の院内幹事。のちBNPに参加し、ジアウル・ラフマン\*の第二期内閣の労働相。サッタル\*政権下でも労働・社会福祉相。エルシャド\*によるクーデタ後、シャムシュル・フダ・チョウドゥリ\*、M. A. モティン\*らとBNPを脱け、JD設立にはしる。エルシャド\*第一期内閣の港湾・船舶・国内水運相。通称ボラ・ミヤ(Bhola Miya)。

[PA]

94) (Dr.) Fazlul Karim

(フォズルル・コリム)

[1.2.30 - ]

出生地：キショルゴンジ／チョウドシヨ  
教育：ダッカ・メディカル・コレッジ(MBBS)

政治歴：言語運動に参加。BD独立後NAP(B)に参加、キショルゴンジ支部長、中央委員会メンバー。BD中国友好協会キショルゴンジ支部長。その後BNPに参加し、ジアウル・ラフマン\*政権の末期に青年問題相をつとめる。

[PA]

95) T. Hussain Khan

(T. ホセン・カン)

[? - ]

政治歴：サッタル\*政権で法務・議会担当相および教育・文化、情報・放送相をつとめる。

96) Abdul Hasnat

(アブル・ハスナート)

[11.9.40 - ]

出生地：ダッカ  
教育：ダッカ大学(BA. Political Science)(1960)。1961年同MA。

インナー・テンプルから弁護士(Barrister) 1970  
家族等：AL指導者A. R. セルニヤ

バート\*の子息

政治歴：BD独立前はALにも所属したが、独立戦争時はパキスタン支持の民兵隊ラザカルに所属する。独立後ダッカ市長にも就任（1977-78）。ダッカ市内の有力政治家のひとり。ジアウル・ラフマン\*暗殺後のサッタル\*政権で公共事業・都市開発相。

[OB28.11.81]

97) L. K. Siddiqi

(L. K. シッディキ)

[ ? - ]

政治歴：サッタル\*の第一期内閣に灌漑・水資源・洪水制御相として、MLから参加。

98) Abul Kashem

(アブル・カシュム)

[1.1.46 - ]

出生地：クミッラ/パルバラ

教育：ダッカ大学 (MCom) 1966

政治歴：クミッラ県学生連盟書記長。EP学生連盟中央委員。独立戦争に参加。中央解放戦士協会の設立者のひとりで副会長。

1978年に、ジアウル・ラフマン\*の新党結成に参加。BNPの学生組織のBNYPの議長。第二期ジアウル・ラフマン\*内閣で青年問題担当閣外相、サッタル\*第一期内閣で同閣内相。

[PA]

99) A. F. M. Ahsanuddin Chowdhury

(A. F. M. アフサスディン・  
チュウドゥリ)

[1915 - ]

職歴：判事。1977年に最高裁判事を退職。

政治歴：エルシャド\*によるクーデタの  
のち、大統領に任命（27. 3.82-16.  
12.84）。

[BX]

(100) H. Md. Ershad

(ホセン・モハンモド・エルシャ  
ド)

[1.2.30 - ]

出生地：ロングブル

教育：カーマイケル・コレッジ、カル  
クタ大学 (BA)

職歴：士官候補生としてコハト（西バ  
キスタン）の士官訓練学校に入  
校。1952年9月17日将校任用。  
まず第二東ベンガル連隊に配属。  
その後1960-62年チャッタゴンの  
東ベンガル連隊の副指揮官、19  
68年にシアルコトの第54旅団の  
旅団長 (BM) など。1969年に  
中佐に昇進。

1969-70には第三東ベンガル  
連隊、1971-72は第七東ベンガ  
ル連隊に所属。

1973年に帰還後高級副官 (A  
G), 73年12月に大佐, 75年6  
月に准将, 同8月少将および陸  
軍副参謀長。78年12月1日にジ

アウル・ラフマン\*の後任として参謀長、79年11月7日に中将。1988年8月31日に、陸軍参謀長を辞任、アティクル・ラフマン中将が後任。

政治歴：1982年3月24日のクーデタで、アブドゥス・サッター\*政権を追放、戒厳令司令官となる。同年12月17日大統領にも就任。以後現役軍人をより多く登用した顧問評議会、内閣を次々に組織。86年1月1日に自らを議長とする国民党（JP）を結成。同年10月の大統領選挙で当選後、11月10日に戒厳令を解除する。1988年6月の憲法改正でイスラムを国教と規定するなど、宗教政策の重視は、軍人の行政・政治への進出とともにエルシャド政権の二大特徴となっている。

[BX, B I 6.1.84]

(101) Mahbub Ali Khan

(マハブブ・アリ・カン海軍少将)

[3.11.34 - 6.8.84]

出生地：シレット / ? / ビバヒムブル

出生地：ダッカ大学卒

家族等：父はパキスタン独立前のアッサム州州会議員。

教育：ダッカ・ガバメント・コレッジ、ダッカ大学(BSc)(LLB)

職歴：1952年10月パキスタン海軍に参加し、王立海軍コレッジ（ダートマス）で訓練。

1956年大尉、66年少佐、72年

帰還し、中佐、74年大佐、78年准将、80年少将。海軍参謀長に1979年11月に任命。

B D独立後イギリスから譲渡された最初のフリゲート艦‘オマル・ファールク’の司令官。また軍人の給与体系についての委員会の長として、現在の体系確立に貢献。

政治歴：1982年3月戒厳副司令官。同時に交通担当顧問。84年8月に辞任。

[T82, T84, B I 6.1.84]

(102) Sultan Mahmud

(スルタン・マハムド空軍少将)

[1944 - ]

出生地：ノアカリ

教育：パキスタン空軍パブリック・スクール (Matr) 1959

職歴：1960年パキスタン空軍に参加。1962年空軍アカデミー（レサルプル）卒。戦闘機、ヘリコプター操縦士として才能を発揮。イランにて訓練（1966）。B D独立戦争時は、第一管区と協力し、B D初の空軍を組織した。独立後は各所の空軍基地司令官を経て、1981年7月空軍参謀長。同12月少将に昇進。

政治歴：エルシャド\*によるクーデタ後の戒厳副司令官兼エネルギー・鉱物資源担当顧問。86年5月の国民議会選挙後の「民政」内閣（第三期エルシャド内閣）成立まで、戒厳副司令官を



つとめる。

[T82, BI6.1.84]

## (103) A. R. Shamsud Doha

(A. R. シュムスド・ドハ)

[1. 29 - ]

出生地：ムルシダバード (インド)

家族等：元EP警視總監，中央政府の農業相 A. H. M. シュムスド・ドハの子息。

教育：セント・ザビエルズ・スクール，セント・ポールズ・スクール，セント・ザビエルズ・コレッジ，ダッカ大学 (BA)

職歴：1952年 パキスタン陸軍士官トレーニング・スクール (コハト) 卒。将校任用。1962年パキスタン文官試験合格。この間1957-58年にアメリカとイギリスで軍事技術訓練。1968年少佐で退役。

政治歴：退役後，ジャーナリストとして，‘インタビュー’誌の編集長。1970年国民議会選挙にラーワルピンディーで立候補 (落選)。BD独立直前には，三度投獄。1971年12月16日釈放。独立後はユーゴスラビア (兼ルーマニア) 大使 (1972)，イラン (兼トルコ) 大使 (1974)，駐英高等弁務官 (1977)，国連総会代表 (1978) など歴任。エルシャド\*政権の外務担当顧問 (27. 3. 82-6. 8. 84)。

[T84, BI6. 1. 84]

## (104) A. M. Abdul Muhith

(アブル・マアラ・アブドゥル・ムヒト)

[25. 1. 34- ]

出生地：シレット

教育：ダッカ大学 (BA) 1954

" (MA, English)

ハーバード大学 (MPA)

職歴：1956年パキスタン文官職に任用。EP州知事付長官代理などを経て，1971年の独立戦争時に，ワシントンのパキスタン大使館の経済担当公使。同年6月にBD臨時政府に忠誠を表明，8月には臨時政府の駐米代表となる。独立後は，BD駐米公使 (経済担当) (1972-74)，この間世銀理事 (72-73)，アジア開発銀行理事 (74-77)，外国財源局 (ERD) 局長 (77) などを歴任。

政治歴：1982年3月から84年1月まで，エルシャド\*の顧問評議会の顧問 (財務担当)。

Bangladesh, Emergence of a Nationなどの著作がある。

[BI 6. 1. 84]

## (105) K. M. Aminul Islam

(カン・モハンモド・アミヌル・イスラム 退役空軍少将)

[1. 2. 31- ]

出生地：ダッカ/ロハジャン/メデビニモンドル

教育：サダト・コレッジ (ISc)

職歴：1951年空軍に参加。1952年パキスタン空軍の将校任用。その後、イギリスの王立空軍学校で訓練を受ける。1968年パキスタン空軍スタッフ・コレッジ卒。1969-70年、EP軍情報局（IS I）局長。

独立後、軍の政治戦略の中心組織であるBD軍情報局長（D G F I）。1976年空軍副参謀長。1977年の退役時まで一貫して情報畑の軍人。

政治歴：1986年5月の国民議会選挙による「民政化」に至るまで、エルシャド\*政権の顧問評議会もしくは内閣のメンバー。労働・マンパワー、灌漑・水資源・洪水制御、宗教問題などを担当。

[T84, BI 6. 1. 84]

(106) Khondakar Abu Baker

(コンドカル・アブ・バケル)

[1. 3. 26-]

出生地：ダンガイル / ? / バニヤラ

教育：ハジ・ムハンモド・モフシン・コレッジ 1948

ダッカ大学（LLB） 1952

リンカーンズ・イン 1952-54

EP高等裁判所 1955

パキスタン最高裁評議員 1960

パキスタン法曹協会会員 1965

BD独立後、1976年に法務総裁。

政治歴：エルシャド\*のクーデタ後に顧問評議会のメンバー（土地改革・土地行政および法務・議会）、第一期内閣

で宗教問題相。

[T84, BI 6. 1. 84]

(107) Abdul Mannan Siddiqui

(アブドゥル・マンナン・シッディキ陸軍少将)

[3. 4. 35-]

出生地：ジュソール

教育：ジュソール・ジラ・スクール、ダッカ・コレッジ

職歴：1953年にパキスタン軍アカデミーに入校。1955年に将校任命。アメリカの陸軍工科学校にて訓練。米軍の一員として1964年コンゴの国連軍に派遣。1970年中佐、ラーワルピンディーにて総司令部勤務。

BD独立後帰還し、1975年軍需局長。78年少将に昇進。81年司令部の主計總監（QMG）。

政治歴：1982年3月エルシャド\*の顧問評議会に公共事業・都市開発担当顧問として入る。のちエルシャド\*の「民政化」過程のなかで一貫して内務相の重要なポストを担う。

[T84, BI 6. 1. 84]

(108) Md. Shamsul Haque

(モハンモド・シャムジュル・ホク陸軍少将)

[1. 9. 31-]

出生地：クミッラ / モトロブ / シュゴンディ

教育：チェンガルチョル・ハイスクー

ル  
 1946  
 ダッカ・コレッジ (ISc) 1948  
 ダッカ・メディカル・コレッジ  
 (MBBS)

職歴：1955年陸軍医務将校に任用。1971年3月まで陸・空軍にて軍医として活動。独立戦争に参加。1971年11月に中佐に昇進。1973年に大佐，さらに准将に昇進。1979年11月に少将に昇進。1986年に中将として退役。

政治歴：1982年3月にエルシャド\*の顧問評議会に加わって以来，「民政化」後も退役軍人として第三期内閣まで閣内にとどまる。その間，主として保健・家族計画担当。救援・復興相の経験もある。

[BI 6. 1. 84]

(109) Mahabubur Rahman

(マハブブル・ラフマン)

[5. 1. 34-]

出生地：ノアカリ

教育：マドラサ教育を受ける。

ダッカ大学 (BA) 1956

" (LLB)

職歴：弁護士。法律顧問会社を設立。また，1964-66年間 'ドルボン' 誌編集。独立後，オグロニ銀行の取締役。BD最高裁の上級弁護士のひとり。

政治歴：エルシャド\*によるクーデタ後の顧問評議会での地方行政・農村開発・協同組合担当顧問。エルシャド\*の

与党づくりの初期の責任者，のち与党JDの書記長。しかしミザヌル・ラフマン・チョウドゥリ\*との争いに敗れ，一時内閣を退く。86年5月の国民議会選挙後，教育相，情報相などに就任。

[T84, BI 6. 1. 84]

(110) A. Z. M. Obaidullah Khan

(A. Z. M. オバイドゥッラ・カン)

[1. 5. 34-]

出生地：ポリシャル

家族等：父アブドゥル・ジョバル・カンは元判事。

教育：ダッカ大学 (BA, English)

" (MA, English)

マゲレンス・コレッジ (ケンブリッジ大学) にて，行政学・農村開発のディプロマ。ハーバード大学国際問題センター研究員となり，中国の農村社会，農村開発をテーマとした。

職歴：パキスタン文官職に第2位の成績で採用 (1957)，EP州政府地方政府および情報局事務長官，計画委員会の農業担当委員など。

BD独立後は，1972-74年の間，農村開発・協同組合事務長官。その後世界銀行のコンサルタントを経て，1976-82年農業事務長官。

政治歴：1982年4月に農業担当顧問 (一期のみ)。その後駐米大使に転出。

[T84, BI. 6. 1. 84]

(111) (Dr.) Safia Khatun

(ショフィヤ・カトゥン)

[15. 1. 31- ]

出生地：ロングブル

[T84. BI6. 1. 84]

教育：ダッカ大学 (MA, Economics)

1953

ダッカ大学 (MA, Education)

1961

北コロラド大学 (PhD, Education)

1965

職歴：ダッカ大学教育調査研究所助教授 (1966), 教育学・心理学部長 (1967-74), 公務委員会委員 (1977-82)。

政治歴：1984年4月～85年1月の間、エルシャド\*政権下で社会福祉・婦人問題担当顧問 (相)。

[T84]

(112) (Dr.) A. Majid Khan

(A. モジド・カン)

[1. 7. 29- ]

出生地：フォリドブル

教育：ハムリン大学 (ミネソタ州)

MA 1956

ミネソタ大学 (MA, PhD, Sociology) 1959

職歴：ラジシャヒ大学社会事業学部長 1964-68。

その後、アジア各国の国連人口計画の担当者となる (→1972)。またライデン大、ストックホルム大等の客員教授。

政治歴：1982年5月にエルシャド\*の顧問評議会のメンバー (教育、宗教問題担当)。その後エルシャド\*第一期内閣で計画相をつとめる。

(113) Syed Nazimuddin Hashim

(ショエド・ナジムッディン・ハシム)

[1925- ]

出生地：ファリドブル

教育：プレジデンシー・コレッジ

(BA, English) 1946

職歴：カルカッタでジャーナリストとしてスタート。のちダッカで活動。パキスタン産業開発公社の広報部長、外務省の広報長官などを赴任。1980年8月にビルマ大使。

政治歴：1982年7月、エルシャド\*の顧問評議会で情報・放送担当のちよ連大使に転出。

[BI6. 1. 84]

(114) Mahabbat Jan Chowdhury

(モハバト・ジャン・チョウドゥリ陸軍少将)

[3. 34- ]

出生地：フォリドブル

教育：アルマニトラ・ガバメント・ハイ・スクール, チッタゴン・ガバメント・コレッジ, ダッカ大学

職歴：1953年パキスタン陸軍に参加。55年信号部隊の将校として任用。

BDライフルズ（国境警備隊）  
の副総監，軍情報局長など。

政治歴：エルシャド\*のクーデタ後，国民議会選挙後に第三期エルシャド\*内閣の成立するまで，内務（人事）部担当顧問（ないし閣僚）としてエルシャド\*体制の確立に寄与。

[T84]

(115) Sultan Ahmad

（スルタン・アフマド海軍少将）

[1. 5. 35- ]

出生地：モイメンシン

職歴：1952年にパキスタン海軍に参加。1956年に王立海軍コレッジからBSc。同年に将校に任用。その後もイギリス，オーストラリアで訓練。1973年に帰還。海軍作戦計画部長。1975～80年の間チッタゴン海軍基地の指揮。1978年1月准将，84年少将。

政治歴：海軍参謀長として，エルシャドの戒厳令政権下での副戒厳令司令官。交通・港湾・国内水軍運当。

[OB 9. 8. 84]

(116) Ataur Rahman Khan

（アタウル・ラフマン・カン）

[6. 3. 1905- ]

出生地：ダッカ / ? / ラリア

教育：ダッカ大学（BA） 1930  
"（LLB） 1936

職歴：ダッカ県弁護士協会会長 1962  
パキスタン弁護士協会委員

1967

ダッカ高裁弁護士協会会長

1969-70

政治歴：1950年の大国民集会（Grand National Convention）の議長をつとめる。1955-58年パキスタン国民議会の野党議員団副団長。1956-58年EP州（AL）政府首相。1958年10月のアユーブ・カーンのクーデタで逮捕。1962年6月のアユーブ憲法反対声明署名者9人のうちのひとりであった。

BD独立後は1979年の国民議会選挙でBDJL党首として当選。エルシャド\*大統領のもとで，1984年に首相および司法・議会相を務める（30. 3. 84-7. 1. 85）。

回想録に，州首相期の活動について述べた Ojartira Dui Bachara（大臣生活2年），およびアユーブ・カーン期の政治を描いた Sairacarira Dasha Bachara（独裁の10年間）がある。

[T82. T84. BX]

(117) Mahmudul Hasan

（マハムドゥル・ハッサン陸軍少将）

[? - ]

政治歴：エルシャド\*の戒厳令政権下に地方行政・農村開発・協同組合担当相。

(118) M. A. Huq

（M. A. ホク）

[? - ]

政治歴：エルシャド\*政権下のJDの幹部。シャムスル・フダ・チョウドゥリ\*，

シャー・モアゼム・ホセン\*らと1984年6月に入閣。土地改革・土地行政担当。

[Courier]

(119) Shah Moazzem Hossain

(シャー・モアゼム・ホセン)

[? - ]

政治歴：ALからコンドカル・モスタック・アフマド\*の民主連盟に参加。のちアフマドとも対立し、エルシャド\*のJDに加わる。エルシャド政権内でしだいに重用されてきた。1984年12月に入閣(労働・マンパワー)して以来、情報・放送相、地方行政・農村開発・協同組合相を経て、88年3月には3名の副首相(M. A. モティン\*, カジ・ジャファル・アフマド\*, モアゼム・ホセン)のひとり。

(120) Md. Abdul Munim

(モハンモド・アブドゥル・ムニム陸軍少将)

教育：ダッカ・エンジニアリング・カレッジ (BSc) 1955

職歴：1956年陸軍の電気機械部隊の将校に任用。1969年クエッタのスタップ・カレッジ卒。

独立後にはGEMやPDBなどの公企業の会長など。1986年退役。

政治歴：1983年7月に公共事業相に任命され以降、一貫してエルシャド\*政権の閣僚。農業相、商業相、財務相、保

健・家族計画相を歴任。

[BI 6. 1. 84]

(121) Anisul Islam Mahmud

(アニスル・イスラム・マフムド)

[? - ]

政治歴：弁護士(バリスター)。エルシャド\*の戒厳令下の第一期政権以降、一貫して閣内にあり、灌漑・水資源・洪水制御、教育、外務などの閣僚を歴任。エルシャド政権に参加するまえはBNPに所属した。

[Courier]

(122) (Dr.) T. I. M. Fazle Rabbi Chowdhury

(T. I. M. ファズレ・ラビ・チョウドゥリ)

[? - ]

政治歴：エルシャド\*の戒厳令政権下に閣僚もしくは顧問をつとめる。モイメンシン農業大学の教授。

(123) Humayun Rashid Chowdhury

(フマユン・ロシド・チョウドゥリ)

[? - ]

政治歴：1985年7月、シャムスド・ドハ\*の辞任で空席の外相に就任(すでに前年から外交顧問)。88年12月辞任。

(124) Md. Sayeduzzman

(モハンモド・ショイドゥッザマン)

[1. 1. 34 - ]

教育：ダッカ大学 (MSc) 1956  
ケンブリッジ大学で行政学と開  
発経済学のディプロマ (1957-  
58)。ウィリアムズ・コレッジ  
(マサチューセッツ) (MA, Ec-  
onomics) (1963)。ナッフィー  
ールド財団研究員 (ロンドン) (1  
969)

職歴：パキスタン文官職 (1956)。ケ  
ンブリッジ大学での訓練，地方  
行政の経験を経て，1961年以  
降，主として財務省の事務長官  
代理。独立後計画省事務長官  
(73-76)，財務省事務長官  
(76-77)，世銀への出向 (77-  
82) など。

政治歴：1985年9月～86年11月財務担当  
顧問。86年11月～87年12月財務相。  
「民政化」後の政治状況に適応できず  
辞任。

[主に本人作成の履歴による]

(125) Zakir K. Chowdhury  
(ザキル・カン・チョウドゥリ)  
[? - ]

政治歴：解放戦士 (ムクティ・ジュッ  
ダ) グループの指導者。エルシャド\*  
政権下では，顧問評議会の一員から，  
青年・スポーツ担当相となる。1986年  
の国民議会選挙後の内閣からははなれ  
ている。

(126) Upendra Lal Chakma  
(ウベンドラ・ラル・チャクマ)  
[? - ]

政治歴：1984年に短期間エルシャド\*大  
統領 (戒厳司令官) の部族問題顧問。

(127) A. R. Yusuf  
(A. R. ユスフ)  
[? - ]

政治歴：1985年の暫定選挙管理内閣の一  
員。弁護士 (バリスター)。

[Courier]

(128) A. K. M. Nurul Islam  
(A. K. M. スルル・イスラム)  
[? - ]

政治歴：最高裁判事から選挙管理委員長  
を経て，エルシャド\*第2期内閣の法  
務相。86年11月には副大統領。1989年  
8月辞職。

[Courier]

(129) Rabea Bhuiyan  
(ラベア・ブイヤン)  
[1. 3. 44- ]

出生地：ダッカ  
教育：ダッカ大学 (MA, Arts, Archi-  
tecture) 1954  
ダッカ大学 (LLB) 1966  
リンカーズ・イン (BCL)  
1978

職歴：弁護士 (1967)。現在最高裁弁  
護士。

政治歴：社会福祉・婦人問題相 (3)

11. 85-10. 8. 87)。

[T82, T84]

(130) M. A. Sattar

(M. A. サッター)

[? - ]

政治歴：エルシャド\*第二期内閣の  
ジュート、繊維相。第四期内閣の民間  
航空・観光相（のち商業相）。

(131) Sultan Ahmad Chowdhury

(スルタン・アフマド・チョウドゥリ)

[16. 8. 30 - ]

出生地：チッタゴン / ? / ウットル  
ハリ

教育：ダッカ大学 (BA, Political  
Science)

ダッカ大学 (MA, Political  
Science)

リンカーンズ・インにて弁護士  
(バリスター) 資格をとる。

職歴：弁護士、チッタゴン法曹協会会  
員

政治歴：チッタゴン県ムスリム学生連盟  
(MSL) の副書記長および東パキス  
タン・ムスリム学生連盟 (EPMS  
L) の活動家。スフラワルディのもと  
で、シレット・レファレンダムの宣伝  
活動に参加。

50年代初期には、チッタゴンの労働  
運動に参加し、BD独立後も同市のサ  
イクル・リキシャ、ベビー・タクシー  
労働者組合の顧問。

62年、アユーブ憲法の施行をきっか

けに結成された、全国民主戦線 (ND  
F) の運営委員会のメンバーとなる。  
過去の活動歴のなかには、ビルマ避難  
民救援委員会の書記長などもある。19  
79年の国民議会選挙で当選。副議長に  
選任される。

エルシャド\*政権期には、1985年11  
月の第二期内閣の計画相をつとめた。  
BNP所属時は、アジズル・ラフマン  
\*派に所属した。

[PA]

(132) Serajul Hossain Khan

(シラジュル・ホセン・カン)

[? - ]

政治歴：エルシャド\*の第二期内閣で漁  
業・森林相をつとめて以来、一貫して  
閣僚にとどまる。土地改革・土地行  
政、労働・人的資源、救援・復興の各  
相を歴任。

(133) Anwar Hossain

(アノワル・ホセン)

[? - ]

政治歴：ベンガル語紙「イッテファッ  
ク」の編集長。1985年3月に入閣。エ  
ネルギー・鉱物資源、交通相。

[Courier]

(134) Salauddin Kader Chowdhury

(サラウッディン・カデル・チョ  
ウドゥリ)

[13. 3. 49 - ]

出生地：チッタゴン



家族等：パキスタン期のML指導者フォ  
ズル・カデル・チョウドゥリ  
の子息。

教育：パンジャーブ大学（パキスタ  
ン）（BA）1971  
リンカーズ・インにて弁護士  
資格 1973

職歴：1974—79の間‘カデル・チョウ  
ドゥリ・ショッピング’社の取締役  
役。

政治歴：MLの候補として1979年国民議  
会選で当選。エルシャド\*のもとで、  
第二期内閣の教授・復興相。国民議  
会選後の新内閣でも保健・家族計画相を  
つとめるが、88年1月に辞任。

[T82]

(135) Mirza Ruhul Amin

(ミルザ・ルフル・アミン)

[?— ]

政治歴：1986年の国民議会選挙後の内閣  
で、農業相（のち社会福祉・婦人問題  
相）。

(136) Maulana Md. A. Mannan

(マオラナ・モハンモド・A・マ  
ンナン)

[?— ]

政治歴：パキスタン時代からML指導者。  
独立戦争に際してはラザカルを組織し  
て独立運動支持者らを殺害。独立後捕  
えられるが、1973年の大赦で釈放。

マドラス教師の組織を背景に、ジア  
ラル・ラフマン\*、エルシャド\*両政権

のもとで復活をはかる。エルシャド\*  
の第三期内閣での宗教相。エルシャド\*  
の「イスラム化」政策の推進者となっ  
たが、イスラムの国教化を規定した憲  
法改正が実施された後、汚職の疑い  
により罷免される。

[本書第2章より]

(137) Shafikul Ghani Swapan

(ショフィクル・ゴニ・ショボン)

[?— ]

政治歴：モンウル・ラフマン\*の子息で、  
ラフマンの死後のNAP（B）の指導  
者であったが、エルシャド\*の第三期  
内閣に入閣し、公共事業を担当する。  
在任期間は87年7月までの1年間にす  
ぎなかった。

[Courier]

(138) Sunil Kumar Gupta

(シュニル・クマル・グプタ)

[1928— ]

出生地：ポリシャル／ゴウルノディ／シ  
ヒパジャ

政治歴：1953年に民主党に入党。57年  
にはNAPに合流。NAPのポリシャル  
県副議長。独立後の73年に同党の中央  
委副議長。パキスタン期には5度、7  
年間投獄。BNPに参加し、中央委員。  
ジアウル・ラフマン\*政権の天然資源  
・石油担当閣外相の経験もあるが、エ  
ルシャド\*政権下でも86年11月以降、  
繊維相、青年・スポーツ相、土地改革  
・土地行政相をつとめている。

[P A]

に属し、閣外相を歴任。

(139) Anwar Zahid

(アノワル・ザヒド)

[? - ]

政治歴：民主党 (Ganatantri Dal) に所属したが、1985年8月にエルシャド\*の支持基盤として結成された国民戦線 (のち国民党 J P) に吸収され、第三期内閣の情報・放送相。職業はジャーナリスト。

[Courier]

(142) Md. Matiur Rahman

(ムハンモド・モティウル・ラフマン)

[? - ]

政治歴：エルシャド\*の第三期内閣の交通相。

(143) Md. Abdul Rashid Engeneer

(モハンモド・アブドゥル・ロンド・エンジニア)

[? - ]

政治歴：エルシャド\*の第三期内閣の労働・人的資源相。在職期間はわずか5カ月。

[Courier]

(140) A. K. Khondkar

(A. K. コンドカル退役空軍少将)

[1935 - ]

出生地：ロングプル

教育：エンジニアリング・コレッジ (中退)

職歴：1951年にパキスタン空軍に参加。主に戦闘機の訓練にたずさわる。独立時にはパキスタン空軍のEP部隊の副指揮官。BD独立とともに初代の空軍参謀長。

政治歴：エルシャド\*の第三期内閣で計相。入閣前は、インド大使であった。

[Courier, OB 11. 4. 72]

(144) Sheikh Shahidul Islam

(シェイク・シヨヒドゥル・イスラム)

[? - ]

政治歴：1988年3月、公共事業相として、閣内相に任命、のち教育相。

(145) Sardar Amjad Hossain

(サルダル・アムジャド・ホセン)

[? - ]

政治歴：第四次エルシャド内閣に食糧相として入閣。のち漁業・畜産相。

(141) Zafar Imam

(ジャファル・イマーム退役陸軍中佐)

[? - ]

政治歴：エルシャド\*の第三期内閣のジュート相、第四期内閣の繊維相。ジャアウル・ラフマン\*政権期にはBNP

(146) A. B. M. Golam Mustafa

(A. B. M. ゴラム・ムスタファ)

[? - ]

政治歴：エルシャド\*の第四期内閣に参加。エネルギー・天然資源相。官僚出

身で商務事務長官から入閣。

(147) Mostafa Jamal Haider

(ムスタファ・ジャマル・ハイダル)

[? - ]

政治歴：エルシャド\*の第四期内閣に土地改革・土地行政相として入閣。民主党 (Ganatantri Dal) の出身。アノワル・ザヒド\*と同じくジャーナリスト。

[Courier]

(148) Rejoyanul Huq Chowdhury

(レジョヤヌル・ホク・チョウドゥリ)

[? - ]

政治歴：エルシャド\*の第四期内閣の社会福祉・婦人問題相。

(149) (Dr.) Wahidul Huq

(ワヒドゥル・ホク)

[? - ]

政治歴：トロント大学の数学および経済学教授から、1988年8月エルシャド\*の第四期内閣の財務相に就任。

[OB 7. 8. 88]